

2019年6月21日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
(コード番号 : 8303 東証第一部)

男性社員のお小遣い額は 36,747 円と過去 2 番目に低い金額 -「2019 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について

～男性社員のお小遣い額は前年比 3,089 円減少、昼食代は前年比 15 円減の 555 円～

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,700 名を対象にした「2019 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

「2019 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員のお小遣い額は 36,747 円(前年比 3,089 円減少)。1979 年の調査開始以来、過去 2 番目に低い金額(最低額は 1982 年の 34,100 円)。女性社員のお小遣い額は 33,269 円(同、1,585 円減少)。近年増加傾向にあったが、過去最も低い金額。
- 男性社員の昼食代は 555 円(同、15 円減少)、女性社員は 581 円(同、5 円減少)。
- 男性社員の 1 ヶ月の飲み代は 13,175 円(同、669 円増加)。女性社員は 9,493 円(同、8 円減少)。
- 職場で働き方改革があったと回答する割合は、男性社員、女性社員ともに前年比増加。そのうち、約 4 割が働き方改革により「支出が増えたものがある」と回答するも、その割合は前年よりも低下。

■ 男性社員のお小遣い額は過去 2 番目に低い金額、女性社員は過去も最も低い金額

男性社員のお小遣い額は、前年の 39,836 円から 3,089 円減少の 36,747 円となり、1979 年の調査開始以来、過去 2 番目に低い金額になりました。景気の変調の兆しが見られることや、10 月に予定される消費増税による影響、家計における賃金の伸びが依然として緩慢なものであること等が理由と考えられます。年代別にみると、30 代以外の世代で大きく減少しており、特に 20 代と 50 代では前年の 4 万円超から 3 万円台後半へ減少しています。

女性社員のお小遣い額は、前年の 34,854 円から 1,585 円減少し、33,269 円となりました。年代別に見ると、40 代と 50 代で 2 万円台後半まで大きく減少している点が特徴的です。近年は増加傾向にありましたが、2019 年は(2014 年以降)過去最も低いお小遣い額となっています。

■ 昼食代は、男性社員・女性社員ともにやや減少

男性社員の 1 日の平均昼食代は、前年の 570 円から 15 円減少の 555 円となりました。2017 年以降緩やかな減少傾向がみられます。年代別では、50 代以外で減少しています。

女性社員の 1 日の平均昼食代は前年の 586 円から 5 円減の 581 円となり、2017 年以降大きな変化は見られません。引き続き女性社員の昼食代が男性社員の昼食代を若干上回っています。

■ 男性社員の 1 ヶ月の飲み代は増加、女性社員は前年とほぼ同水準

男性社員の 1 回の飲み代は 5,415 円、1 回の飲み代と 1 ヶ月の平均飲み回数から算出した 1 ヶ月の飲み代は前年比 669 円増加の 13,175 円となりました。

女性社員の 1 回の飲み代は 4,288 円、1 ヶ月の飲み代は前年比 365 円減少の 9,493 円となりました。

■ 職場で働き方改革があったと回答する割合は、男性社員、女性社員ともに前年比増加するも、「支出が増えたものがある」と回答する割合は前年比減少

「職場で働き方改革があった」と回答する割合は、男性社員、女性社員ともに前年より約 10 ㊦増加して、それぞれ 47.5%と 40.7%となりました。そのうち、働き方改革に「支出が増えたものがある」と回答した割合は、男性社員が前年比 3.7 ㊦減少の 43.2%、女性社員は前年比 0.9 ㊦減少の 38.9%といずれも減少しています。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2019 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。
なお、今回は、昼食代・飲み代の支払い手段の調査についても行っております。

以上

お問い合わせ先
新生銀行 グループIR・広報部
幡野、風間、紀
Tel. 03-6880-8303

別添

2019年
サラリーマンのお小遣い調査
詳細レポート

2019年 サラリーマンのお小遣い調査概要

景気変調の兆しや消費増税による影響等が懸念される中、
男性会社員のお小遣い額は36,747円と過去2番目に低い金額
ランチ代は555円と前年より15円微減

- 最近の景気に変調の兆しがみられ、10月に予定される消費増税による影響や家計における賃金の伸びが依然として緩慢なものであること等から、男性会社員の毎月の平均お小遣い額は36,747円と、前年より3,089円減少し、1979年の調査開始以来、過去2番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)。20代と50代は前年4万円前半であったが、今回は大きく減少し、ともに3万円台後半になった。40代は33,938円と男性会社員の中で最も低いお小遣い額。
- 男性会社員の1日の平均昼食代は前年比15円微減で、555円。
- 男性会社員の1回あたりの飲み代は5,415円、自宅で飲む方の2,794円より2,621円以上高い結果に。
- 女性会社員の毎月の平均お小遣い額は、前年比1,585円減少し、33,269円。20代は前年比1,001円減少の41,122円となり、今回調査で唯一4万円台を超えた。女性会社員の1日の平均昼食代は前年比5円減少の581円。1回あたりの飲み代は4,288円と、自宅で飲む方の2,106円と金額に開きがある。
- 男性会社員の約半数(47.5%)が職場で働き方改革があったと回答。「残業が減った」(49.7%)、「有給が取りやすくなった」(44.2%)、「定時に帰宅できる日数が増えた」(22.0%)が主な内容。働き方改革により43.2%が「支出が増えたものがある」と回答。
- 消費税8%の負担を感じる人は、前年と同水準であり、男性会社員で73.2%(前年は73.1%)、女性会社員で80.5%(前年は80.4%)。消費税率8%の引き上げから5年が経過するが、依然として負担を感じている層が多い。消費税10%への負担感はさらに高く、男女ともに消費税8%の場合より約10%高くなり、今後、消費税引き上げによるお小遣いへの影響の大きさも予測される。

<2019年調査結果について>

■2018年度の景気動向

2018年度の日経平均株価は2万1,000円台からスタートし、米中貿易・経済摩擦問題の緊張緩和に向けた動きや米国企業収益の好調さ等から、10月上旬には27年ぶりの高値となる2万4,000円台をつけました。しかしながら、10月以降、FRB(連邦準備制度理事会)のタカ派姿勢や、米中問題への懸念等から米国株が大幅に下落し、12月末には一時2万円割れまで下落しました。その後、FRBが利上げペースを鈍化するとの方針を示したこと等から、2019年に入ってから株価は緩やかな上昇に転じ、2019年3月末の終値は2万1,205円81銭(2018年3月末との比較では、248円49銭下落)となりました。

景気の見方について、2019年5月の月例経済報告では「緩やかに回復している」とされた一方、同月に公表された最新の景気動向指数(2019年3月分)では、「悪化」となりました。賃金面においては、厚生労働省が発表した2018年度の毎月勤労統計調査によると、名目賃金は前年度比で0.9%上昇、物価変動を除いた実質賃金指数は0.0%にとどまりました。同じく厚生労働省が発表した「平成30年 賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性33万7,600円(前年比0.6%増)、女性24万7,500円(同0.6%増)となり、女性の賃金は昭和51年以降で最高となりました。

■2019年度の見通し

当行は、国内の消費増税が10%に引き上げられた場合、各種経済対策も予定されているものの、後述のお小遣い調査にもある通り、家計の負担増の方が大きく、2019年度の日本の実質GDPは0.2%(注)にとどまると見込んでいます(2018年度0.7%)。また過去5年は賃金引上げが続きましたが、2019年度の賃金の見通しとしては、2019年春闘の中間集計結果によると(2019年5月10日時点)、基本給を底上げするベースアップ(ベア)実施額は、2,000組合の賃上げ額平均で1,570円となり(引き上げ率は0.50%)、前年同時期の実施額と率(賃上げ額1,614円、引き上げ率0.53%)より微減しました。このことから、2019年度のサラリーマンの賃金の伸びは鈍化する見込みです。

■2019年サラリーマンのお小遣い調査

今回の「サラリーマンのお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の39,836円から3,089円減少して36,747円となりました。男性会社員のお小遣いを年代別にみると、50代が最も高く38,051円、次いで20代と30代が3万7,000円台で、40代は33,938円と最も低い結果になり、世代間で差が出る結果となりました。また女性会社員のお小遣い額は、前年より1,585円減少し、33,269円となり、男性会社員と同様に今回は下がる結果となりました。

ライフステージ別では、未婚の男性会社員のお小遣いが最も高く4万円前半となっています。一方で、子どもあり世帯で中高生以下がいる世帯(未就学児、小学生、中学生、高校生のいる世帯)では2万円前半ばから3万円前半ばとなり、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯において、お小遣い額が低い結果となっています。

消費税率8%の負担感も前年とほぼ同水準で、男性・女性会社員ともに7割以上が負担を感じている(「大変負担を感じている」と「少し負担を感じている」の合計)」と回答し、消費税率10%となった場合の負担感は男性・女性会社員ともに8割以上となり、消費税が10%に引き上げられた場合、さらに厳しいお財布事情になることが想定されます。

「働き方改革」が家計の支出に与える影響については、男性会社員の47.5%が「職場で働き方改革があった」と回答し、実際に働き方改革によって支出が増えたものがある男性会社員は43.2%となりました。男性会社員20代ではその割合が59.3%、女性会社員20代では51.0%となり、働き方改革による支出増を牽引しているのは、前年と同様に男女とも20代という若年層であることが明らかになりました。

＜調査設計＞

- **調査時期** 2019年4月5日～4月8日の4日間
- **調査方法** インターネットによる調査(専門の調査会社に依頼し、全国からサンプルを収集)
- **調査エリア** 全国
- **調査対象者** 会社員(正社員・契約社員・派遣社員)、パート・アルバイト
- **サンプル数** 合計2,717名
 会社員 男性:1,252名、女性:841名
 パート・アルバイト 男性:312名、女性:312名
- **サンプル内訳**

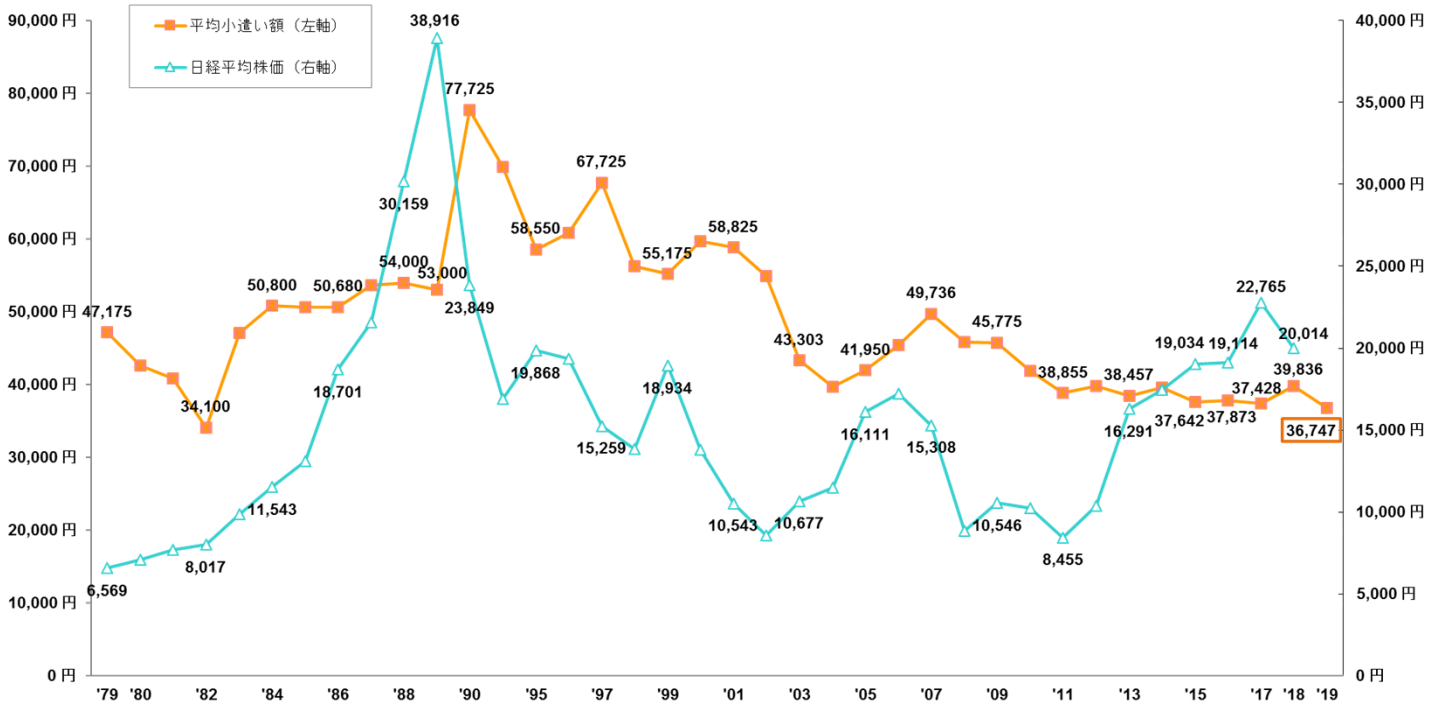
	男性 会社員		女性 会社員		男性 パート・アルバイト		女性 パート・アルバイト	
	N	%	N	%	N	%	N	%
20代	313	25%	210	25%	78	25%	78	25%
30代	313	25%	210	25%	78	25%	78	25%
40代	313	25%	211	25%	78	25%	78	25%
50代	313	25%	210	25%	78	25%	78	25%
総計	1,252	100%	841	100%	312	100%	312	100%

※会社員、女性パート・アルバイトは、年代均等にて割付回収しています。
 ※男性パート・アルバイトは年代均等になるよう、集計時に補正をしています。
 (本レポートは、補正後のスコアを掲載しています)

＜目次＞

【1】 サラリーマンのお小遣い.....	6
【2】 サラリーマンの昼食事情.....	13
【3】 サラリーマンの飲み事情.....	17
【4】 働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化.....	21
【5】 消費税の負担感、経済的なゆとり.....	27
【6】 お小遣いの使いみち、やりくり術.....	32
【7】 サラリーマンの給与管理状況.....	37
【8】 昼食代・飲み代の支払い手段.....	39
【9】 パート・アルバイトの基本データ.....	43

日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移 (1979年～2019年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

【1】サラリーマンのお小遣い

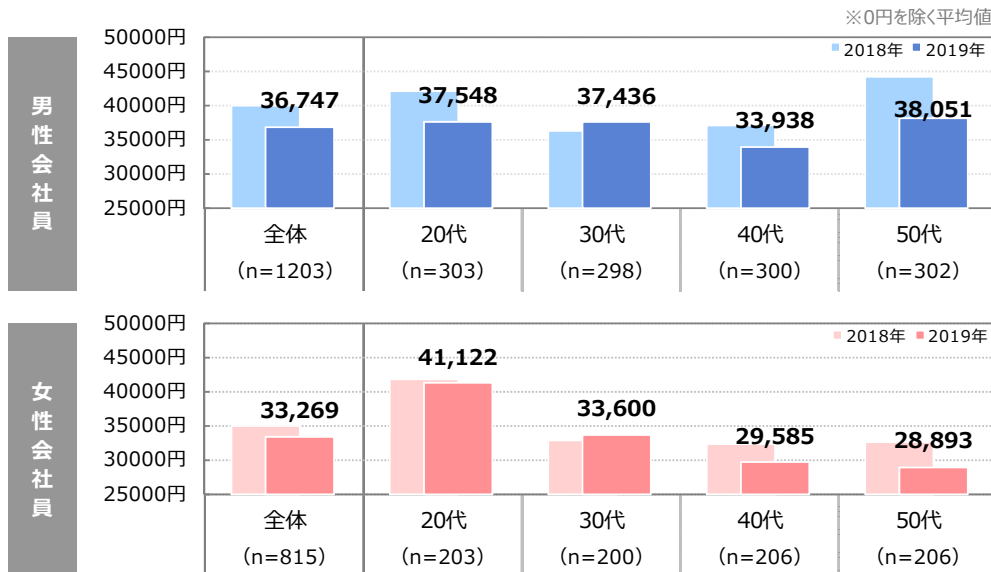
- ▶ 男性社員の月額平均お小遣い額は36,747円と前年比3,089円減少し、過去2番目に低いお小遣い額(最低額は1982年の34,100円)
- ▶ 30代を除く各世代で前年より減少し、20代は4,470円、40代は3,135円、50代は5,966円減少
- ▶ 未婚者は4万円を超えるが、既婚者は2万円台半ばから3万円台後半と、ライフステージ別で開きがある
- ▶ 女性社員は近年増加傾向にあったが、33,269円と前年より1,585円減少し、過去最も低いお小遣い額

■ 毎月の平均お小遣い額

男性社員の毎月の平均お小遣い額は、前年の39,836円から3,089円減の36,747円となりました。年代別にみると、30代以外で大きく減少しております。特に、20代、50代で前年4万円を超えておりましたが、3万円台後半にまで減少しております。

女性社員のお小遣い額は前年の34,854円から1,585円減少し、33,269円となりました。年代別にみると、40代、50代で2万円台後半まで大きく減少している点が特徴的です。

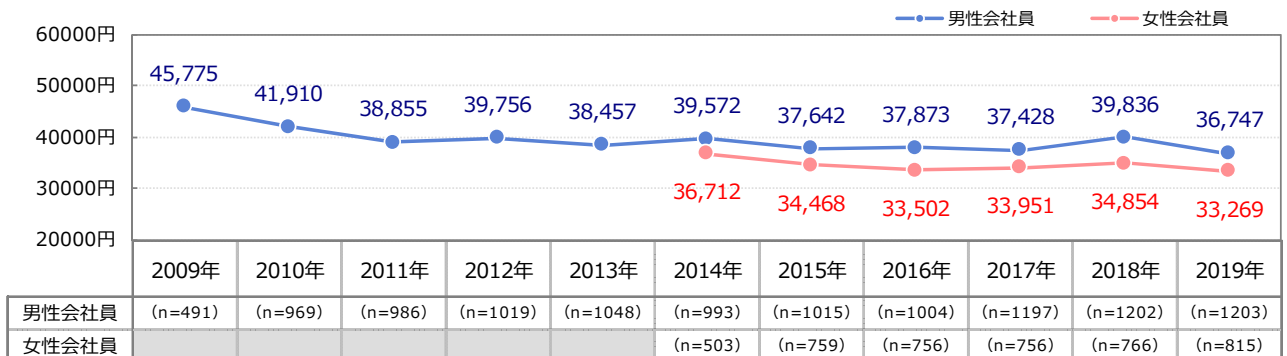
設問：あなたの一月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)



男性社員における近年のお小遣い額の推移は、2018年は39,836円と、2014年と同水準まで増加しましたが、2019年は大きく減少し、(1979年以降)過去2番目に低いお小遣い額となっております。

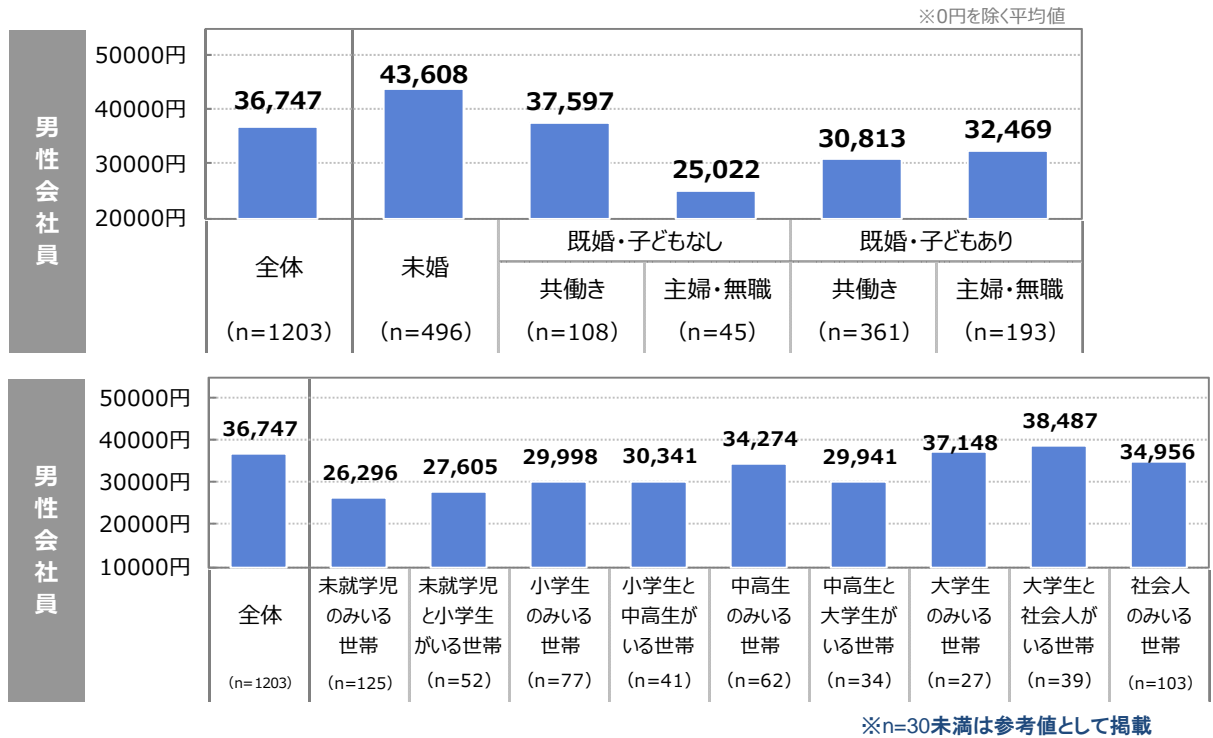
女性社員のお小遣い額も近年増加傾向にありましたが、2019年は(2014年以降)過去最も低いお小遣い額となっております。

■ 平均お小遣い額の時系列推移(2009年～2019年)



男性会社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者では4万円を超えています。一方、既婚者は2万円台半ばから3万円台後半と、未婚者の方がお小遣い額が大幅に高い結果となりました。

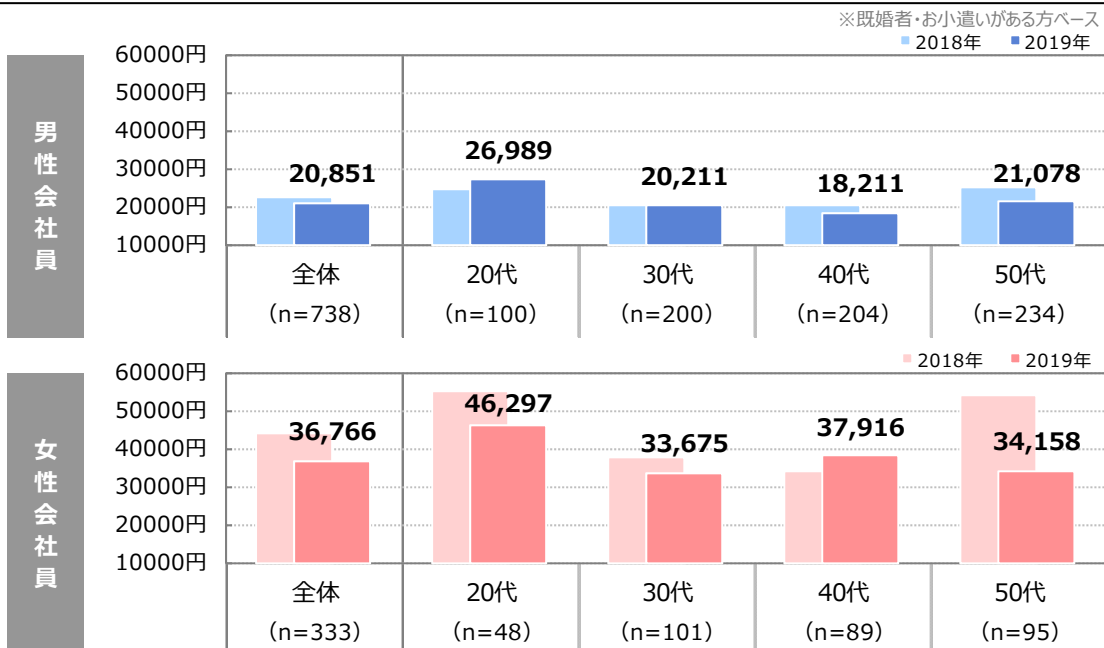
また、子どもの学齢別にみると、小学生以下がいる家庭ではお小遣い額が少ない傾向がみられ、子育て・教育費の家計への負担が読み取れる結果となりました。



■ 配偶者のお小遣い額

男性会社員の配偶者のお小遣い額は、前年より1,573円減少し、20,851円となっています。年代別では、40代で2,263円、50代で4,174円の減少の傾向がみられます。同様に、女性会社員の配偶者のお小遣い額も、7,284円減少し、36,766円となっており、前頁の男性会社員のお小遣い額と比較して、ほぼ同様の額となっております。また、年代別にみると、20代と50代で前年より大幅に減少している傾向がみられます。

設問：配偶者の一カ月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)

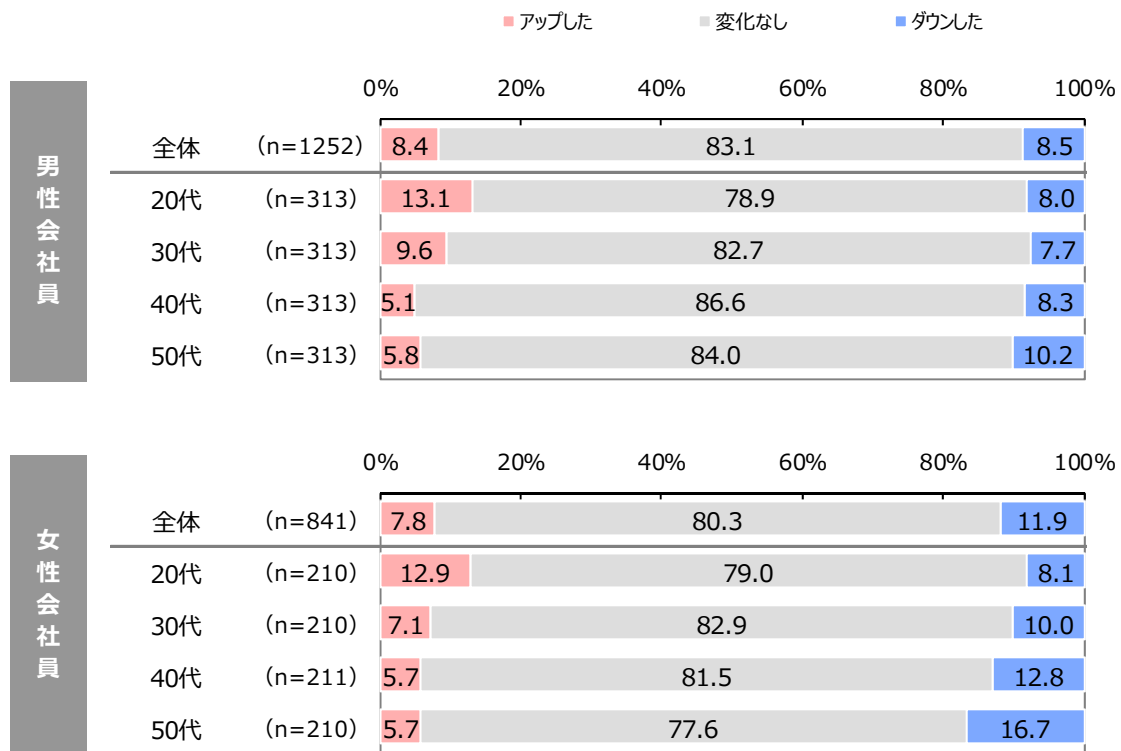


■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、多くの方が「変化なし」という結果でした。変化があった方では、「アップした」が8.4%、「ダウンした」が8.5%と、アップした方とダウンした方の割合は同程度となっております。年代別にみると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では13.1%に達しています。一方、「ダウンした」の割合は、50代以外では同水準となっております。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。また、「アップした」の割合が若年の方ほど高い点も、男性会社員と同様です。一方、「ダウンした」の割合は、年配層ほど高い傾向がみられます。

設問：この一年(2018年4月～2019年3月)の間に、あなたの“おこづかい”はどのように変化しましたか？

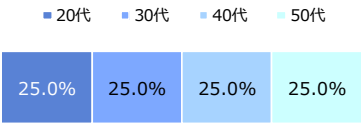
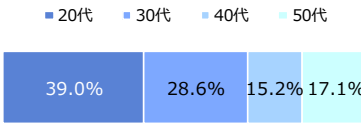
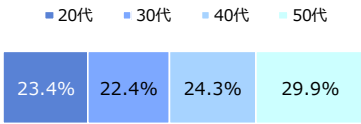
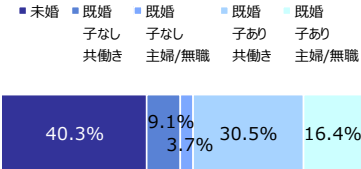
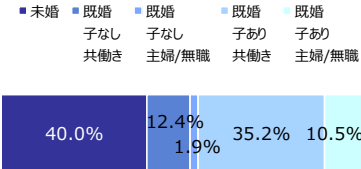
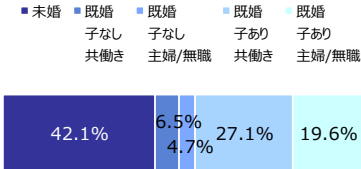
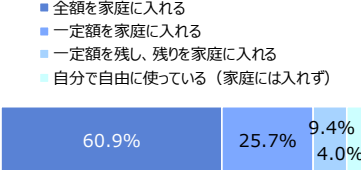
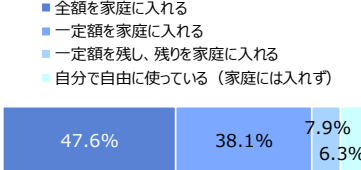
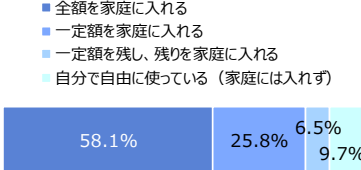


■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性会社員のこの1年でお小遣いがアップした方(8.4%)とダウンした方(8.5%)のプロフィールを、男性会社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が39.0%を占め、若年層寄りの傾向がみられます。年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と122万円の開きがあります。家族構成では既婚・子あり・共働き層の割合が高い傾向がみられます。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は50代が多く、年収は、個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。

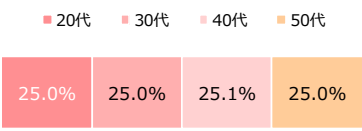
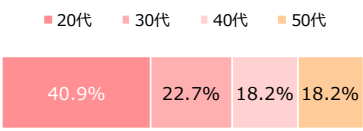
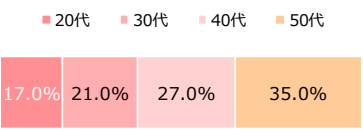
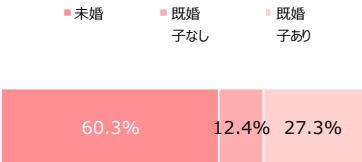
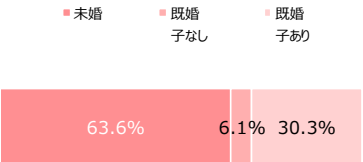
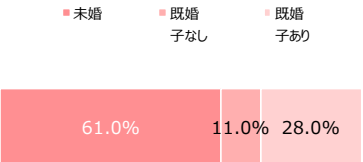
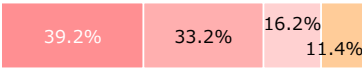
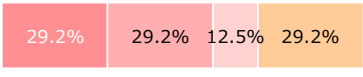
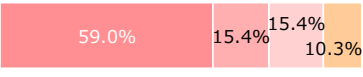
	男性会社員 全体 (n=1252)	お小遣いがアップした方 (n=105)	お小遣いがダウンした方 (n=107)
年齢			
年収	個人年収 521 万円 世帯年収 659 万円	個人年収 577 万円 世帯年収 781 万円	個人年収 442 万円 世帯年収 560 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース	 (n=747)	 (n=63)	 (n=62)

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性社員では、この1年でお小遣いがアップした方は7.8%、ダウンした方は11.9%という結果になりました(P8参照)。

女性社員全体と比較して、プロフィールの特徴をみると、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が40.9%を占め、男性社員同様、若年層寄りの傾向がみられます。年収も個人年収・世帯年収ともに高く、給与管理状況は、自分で使っている方が多くなっています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は50代が多く年収は、個人年収・世帯年収ともに全体より低い結果となっております。また、給与管理状況は、全額を家庭に入れる方が多い結果となっております。

	女性社員 全体 (n=841)	お小遣いがアップした方 (n=66)	お小遣いがダウンした方 (n=100)
年齢			
年収	個人年収 320 万円 世帯年収 606 万円	個人年収 364 万円 世帯年収 644 万円	個人年収 288 万円 世帯年収 532 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース			

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

■ お小遣い額がアップした理由・ダウンした理由

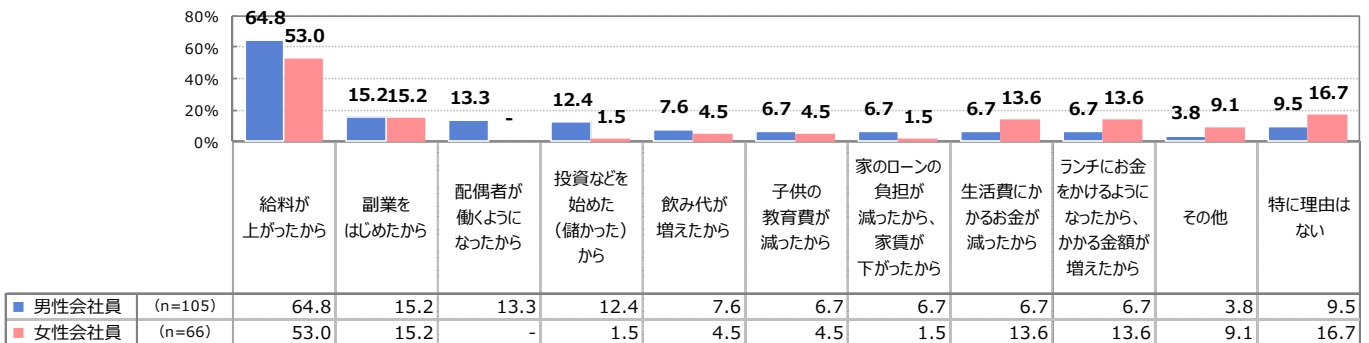
この1年でお小遣いがアップした方(男性会社員:8.4%、女性会社員7.8%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがアップした理由は、「給料が上がったから」が64.8%で最も高く、「副業をはじめたから」15.2%、「配偶者が働くようになったから」13.3%が続く結果となりました。

女性会社員の理由は上位2つは変わらず、3番手に「生活費にかかるお金が減ったから」13.6%、「ランチにお金をかけるようになったから、かかる金額が増えたから」13.6%が挙げられます。

設問：おこづかいがアップした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがアップした方ベース



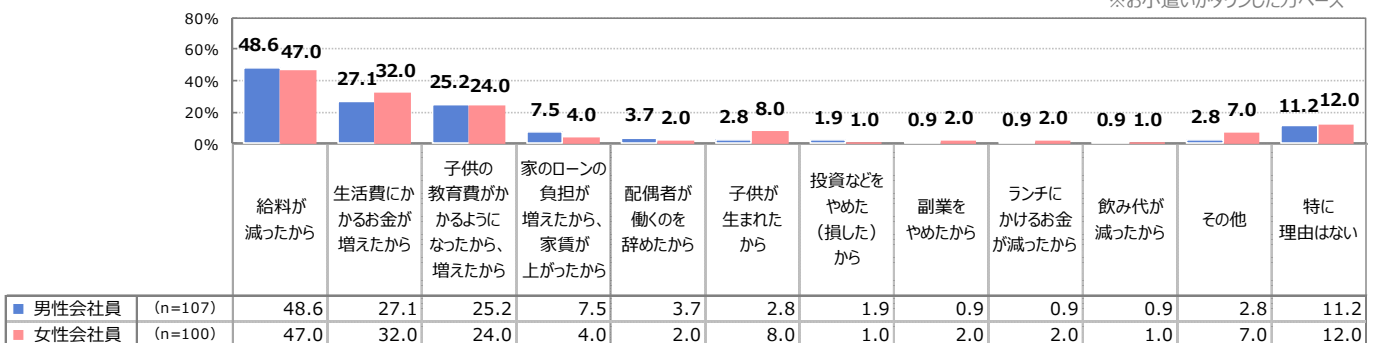
また、この1年でお小遣いがダウンした方(男性会社員:8.5%、女性会社員11.9%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがダウンした理由は、「給料が減ったから」が48.6%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」27.1%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」25.2%が続く結果となりました。

また、女性会社員の理由は、男性会社員同様、「給料が減ったから」が47.0%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」32.0%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」24.0%で続いています。

設問：おこづかいがダウンした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

※お小遣いがダウンした方ベース

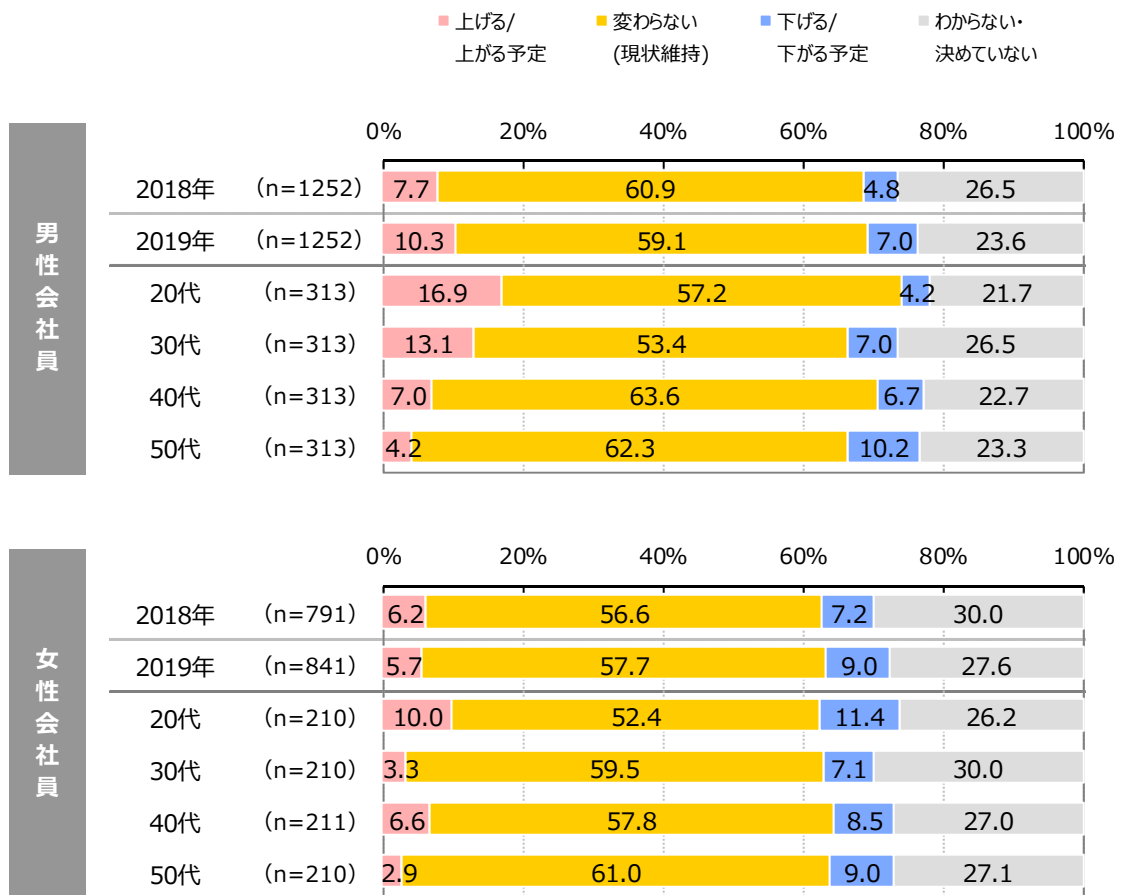


■ お小遣いアップの可能性

男性社員における、今後のお小遣い額の予定は、「変わらない(現状維持)」が59.1%を占めます。「上げる/上がる予定」は10.3%、「下げる/下がる予定」は7.0%と、前年と比較して、「上げる/上がる予定」、「下げる/下がる予定」ともに高い傾向にあります。年代別にみると、若年の方ほど「上げる/上がる予定」、年配の方ほど「下げる/下がる予定」が高い傾向にあります。

女性社員も、男性社員同様、変動のある層は限定的ですが、「下げる/下がる予定」は20代で最も高くなっており

設問：あなたの“おこづかい”は、今後アップする可能性がありますか？



【2】サラリーマンの昼食事情

- ▶ 男性会社員の昼食代は555円と前年より15円減少、女性会社員は前年より5円微減し581円となり、男性会社員の昼食代を若干上回る
- ▶ 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で3割強、女性で約半数を占める
- ▶ 昼食にかかる平均時間では、男性会社員が21.0分に対し、女性会社員は28.2分と男性よりやや長い傾向

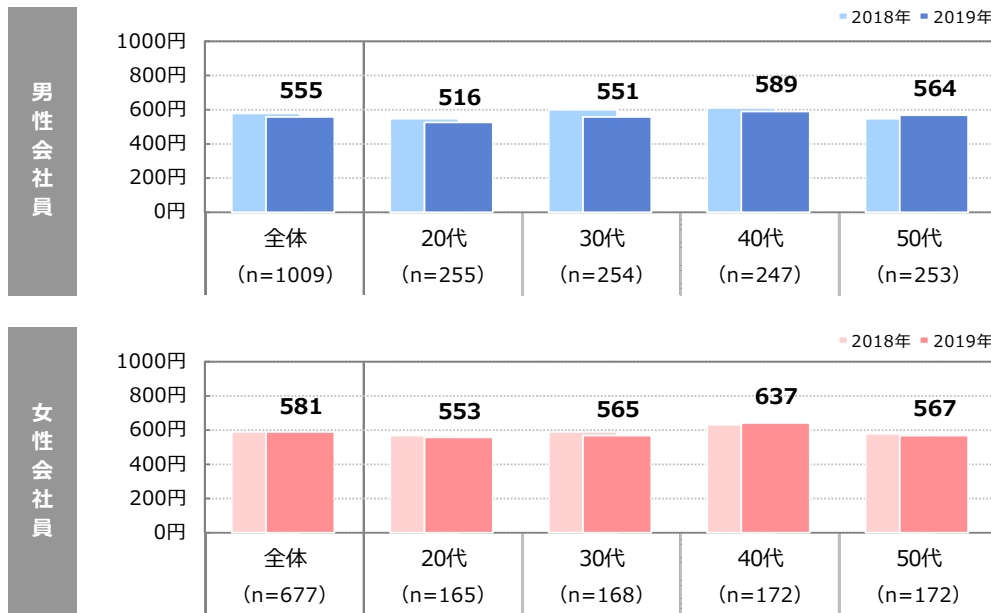
■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、前年の570円から15円減少し、555円となりました。年代別にみると、50代以外で減少しています。

女性会社員の一日の昼食代は、前年の586円から5円微減し、581円となりました。男性会社員と比較して、いずれの年代も、男性会社員よりも高くなっています。

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)

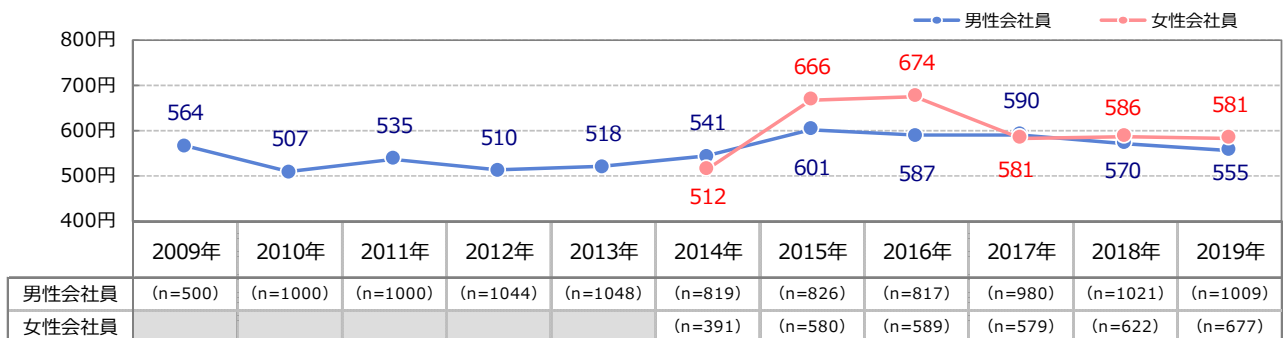
※勤務日に昼食をとる方ベース



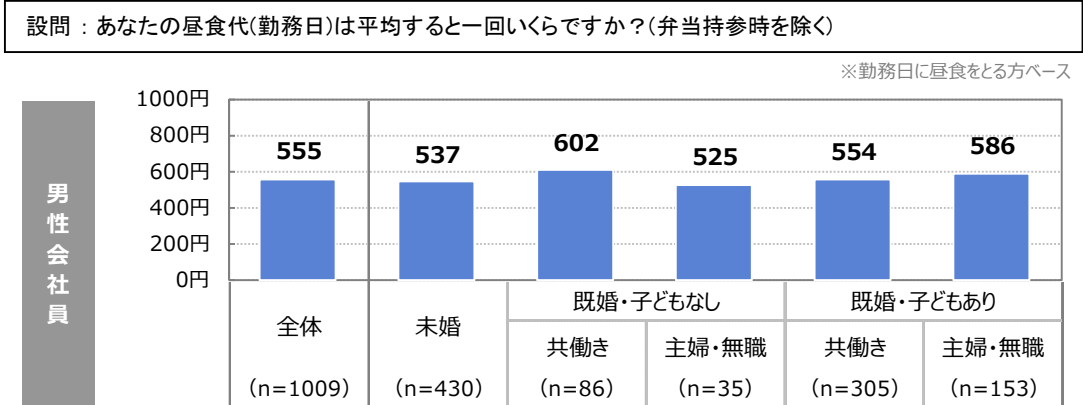
男性会社員における直近の昼食代の傾向は、前年より15円減少し、2017年以降緩やかな減少傾向がみられます。

一方、女性会社員の平均昼食代は、前年より5円微減しており、2017年以降大きな変化はみられません。

■ 平均昼食代の時系列推移(2009年～2019年)



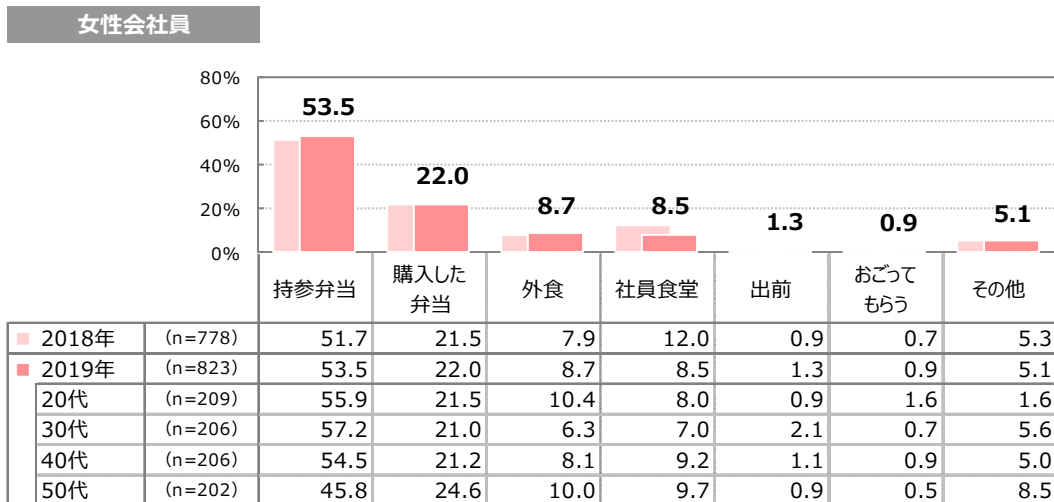
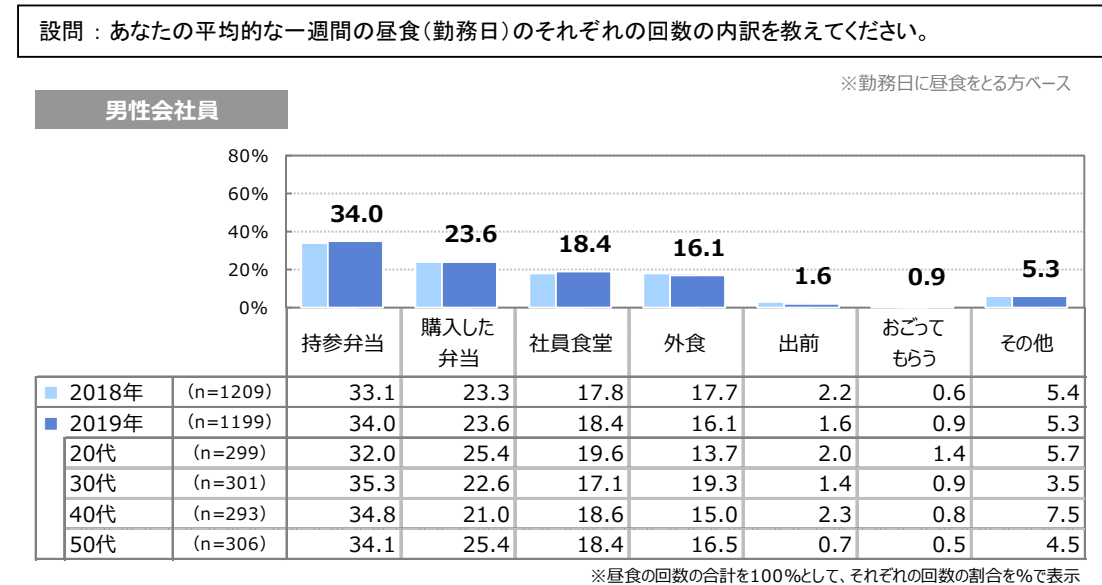
男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)が602円と最も高い金額となっています。



■ 昼食の内訳

男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」34.0%、「購入した弁当」23.6%、「社員食堂」18.4%の順で、前年と比較して大きな変化はみられませんでした。

女性会社員では、「持参弁当」53.5%、「購入した弁当」22.0%、「外食」8.7%の順となっています。また、「社員食堂」、「外食」が男性よりも低く、「持参弁当」が高いことから、お弁当で昼食を済ませる傾向が強いことがわかります。

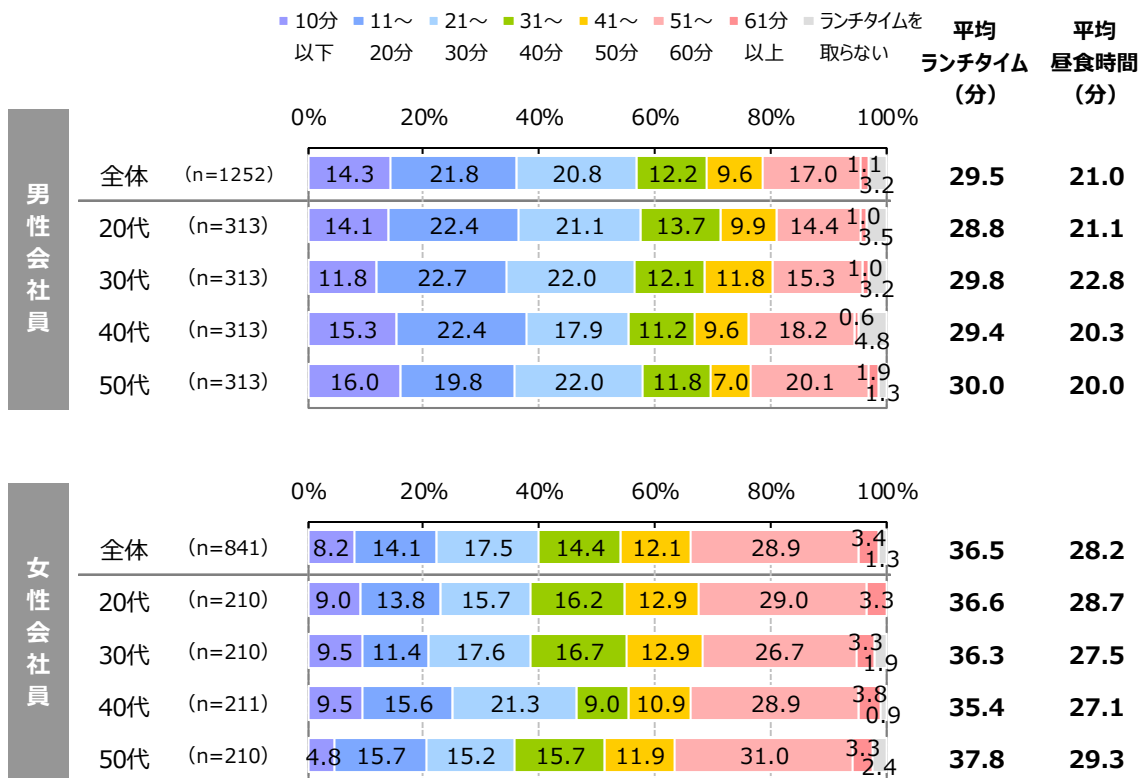


■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均29.5分。そのうち、昼食時間は平均21.0分となっています。回答時間が分散していることから、個々人でランチタイム時間にばらつきがあることがわかります。なお、年代別にみると、50代で「51～60分」の割合が高い点が特徴です。

女性社員においては、「51～60分」が3割程度と多く、ランチタイム時間は平均36.5分、昼食時間は平均28.2分と、男性社員よりやや長い傾向がみられます。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



■ ランチタイムの過ごし方

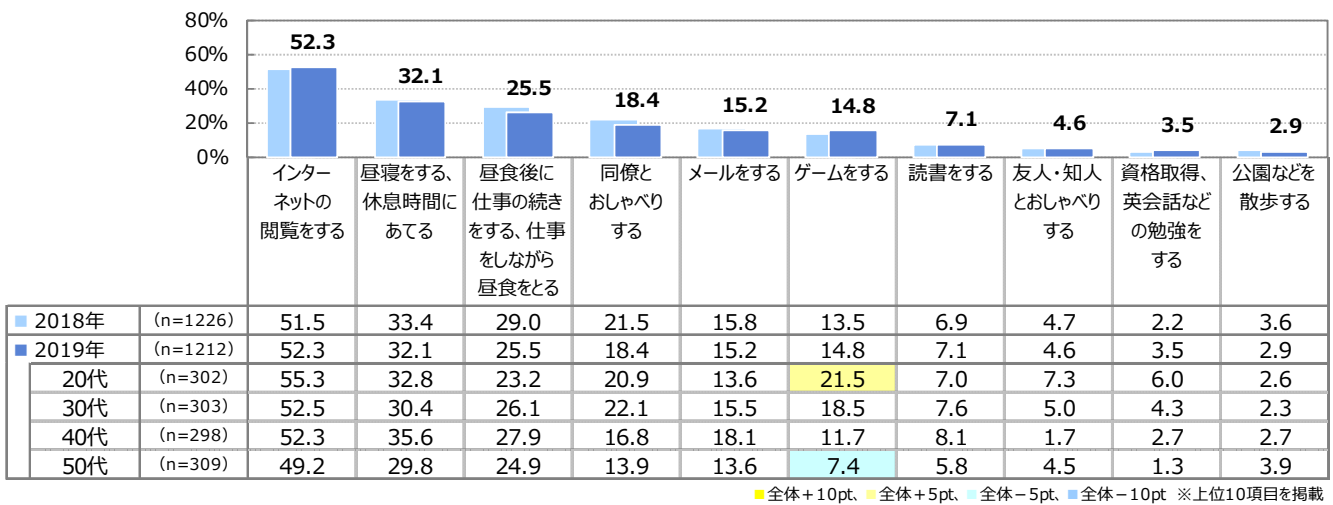
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」52.3%、「昼寝や休息」32.1%、「仕事の続き/仕事をしながら」25.5%となっております。前年と比較して、「ゲームをする」がやや高くなっており、特に20代で高い傾向がみられます。

女性社員においても、男性同様、「インターネットの閲覧」60.6%がトップになっています。しかし、「同僚とおしゃべり」39.3%、「メール」30.0%が続いており、男性社員と比べて誰かと会話しながら過ごす傾向にあることがわかります。また、年代別では、20代、30代で、「インターネットの閲覧」が高い点が特徴的です。

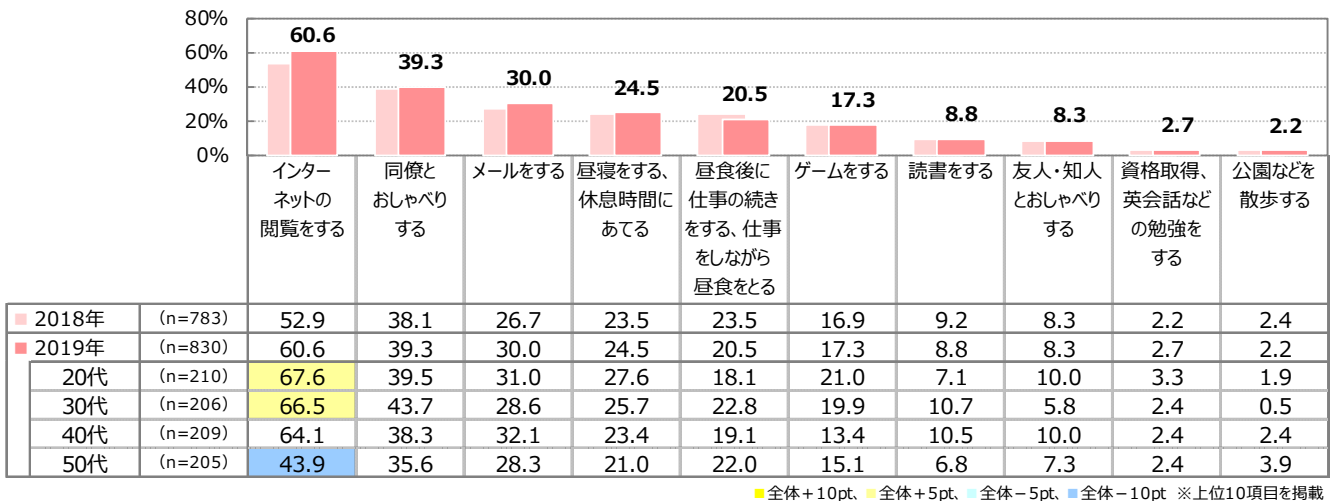
設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

男性社員

※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース



女性社員



【3】サラリーマンの飲み事情

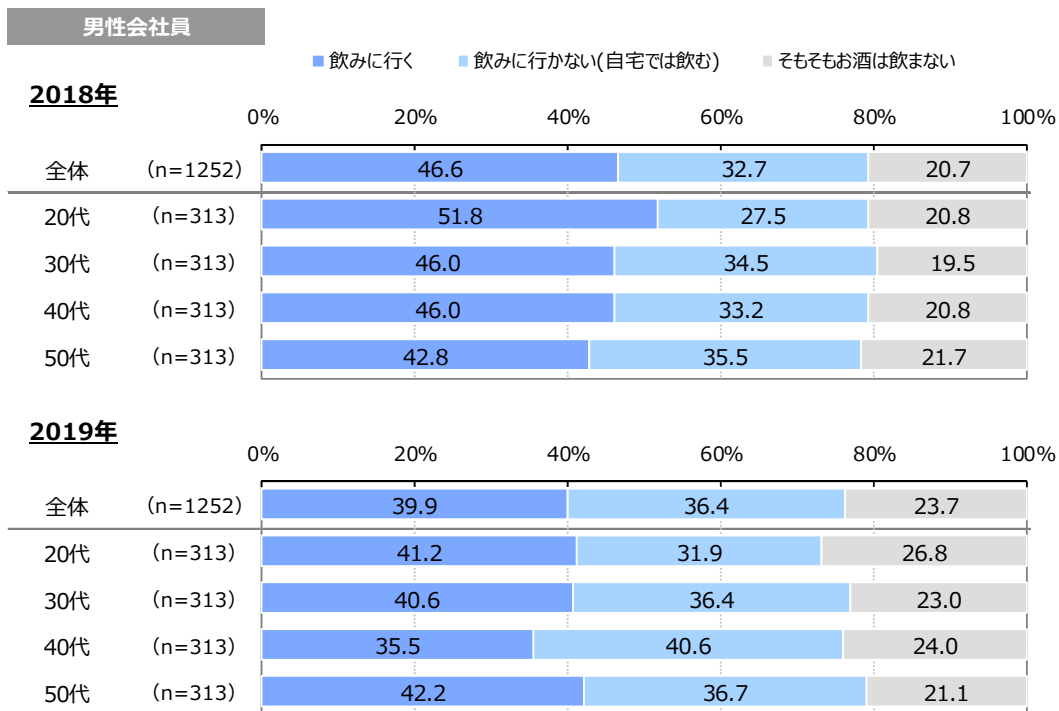
- ▶ 男性会社員の仕事終わりの飲酒状況は39.9%と前年より6.7%減少。仕事後に飲酒している方（外飲みと自宅で飲むの合計）は76.3%となり、「お酒を飲まない人」は23.7%と約4人に1人は飲酒していない状況
- ▶ 男性会社員の1回の飲み代は5,415円、女性会社員の1回の飲み代は4,288円
- ▶ 1ヵ月の飲み代は、男性会社員は前年より669円増え13,175円、女性会社員は前年とほぼ水準の9,493円に（※飲み行く方ベース比較、20ページ参照）

■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

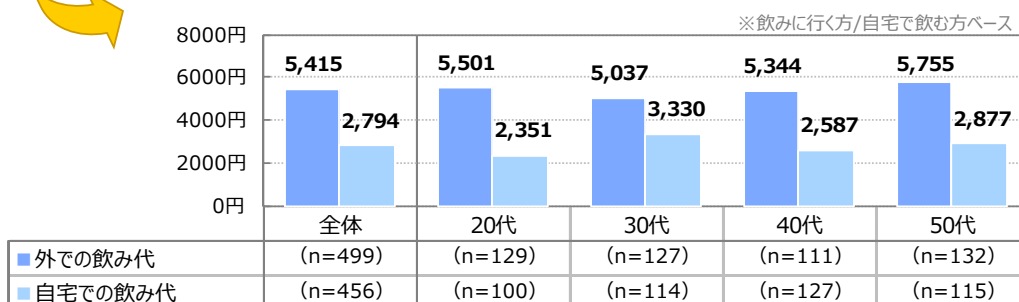
男性会社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が39.9%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が36.4%を占めており、飲酒している方は76.3%にのぼります。前年と比較して、「飲みに行く」は減少し、「飲みに行かない(自宅では飲む)」、「そもそもお酒は飲まない」が増加しております。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代を比較すると、外での飲み代が平均5,415円に対し、自宅での飲み代が平均2,794円と、2,621円の開きがみられます。年代別でみると、外での飲み代は50代が5,755円で最も高いのに対し、自宅での飲み代は30代が最も高くなっています。

設問：仕事が終わった後、一ヵ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

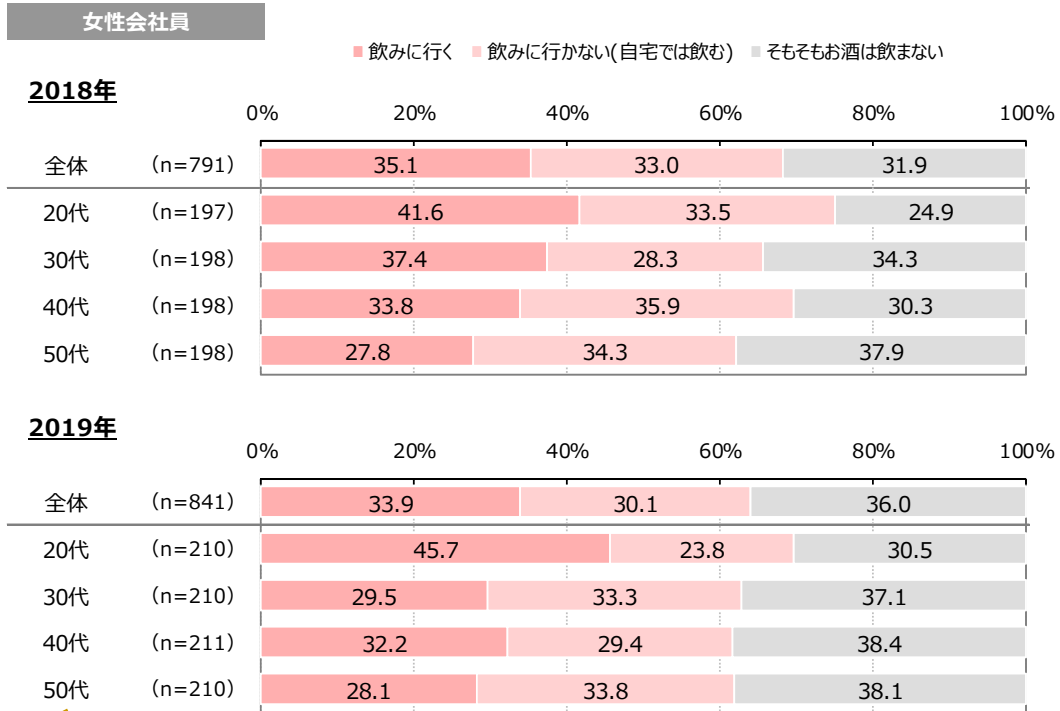


1回の平均飲み代は・・・？

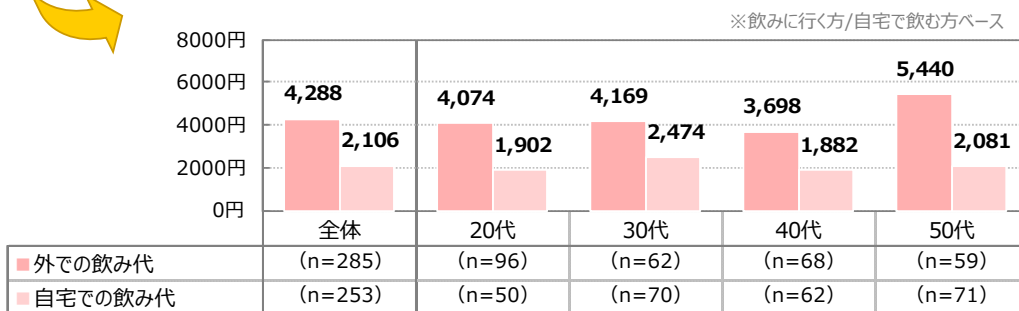


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が33.9%を、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」は30.1%を占めており、飲酒している方は64.0%となっています。年代別にみると、前年と比較して、30代で自宅で飲む割合が増えています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均4,288円に対し、自宅での飲み代が平均2,106円と、2,182円の開きがみられます。また、性年代別では、50代で外での飲み代が特に高い点が特徴的です。



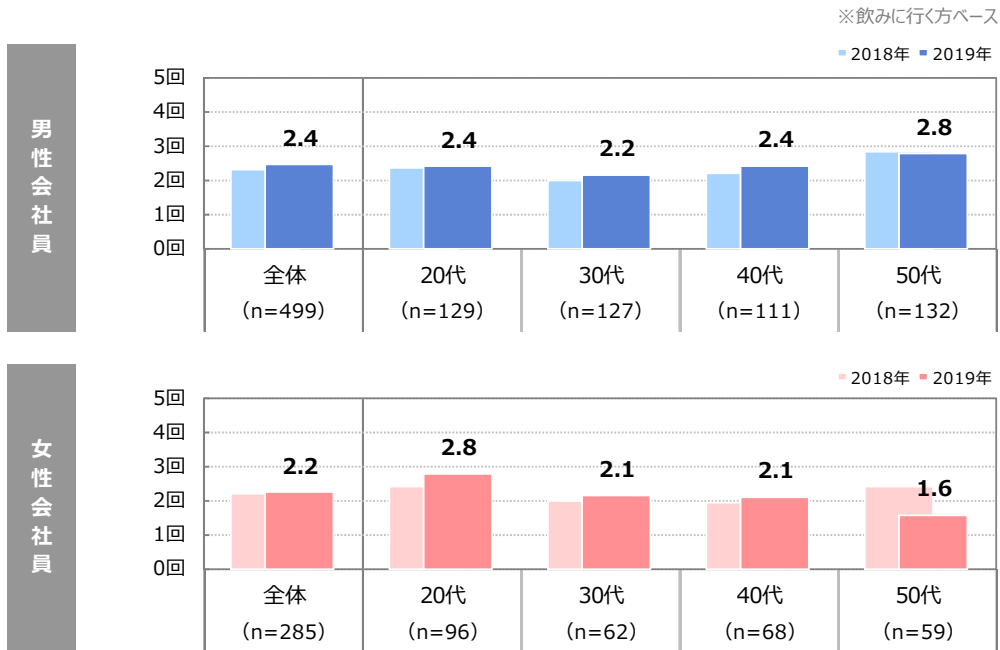
1回の平均飲み代は・・・?



■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

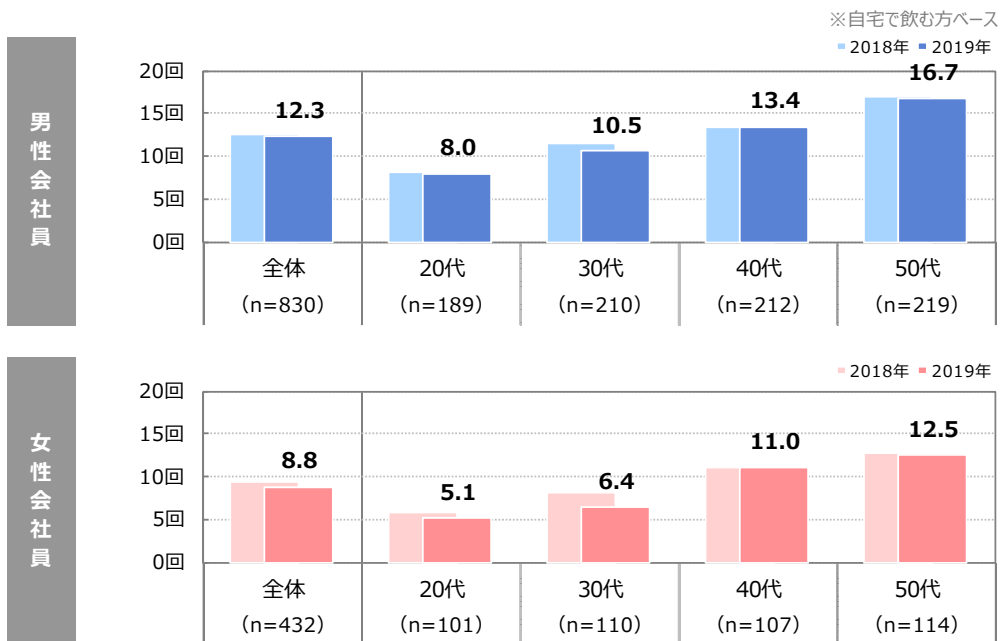
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は2.4回、女性社員は2.2回と、前年と同水準となりました。年代別にみると、男性社員は、50代が最も多くなっています。一方、女性社員は、前年最も高かった50代で大きく減少している点特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が12.3回と、前年と同水準、女性社員が8.8回と、前年より微減です。年代別にみると、男性社員、女性社員ともに50代が最も高くなっております。

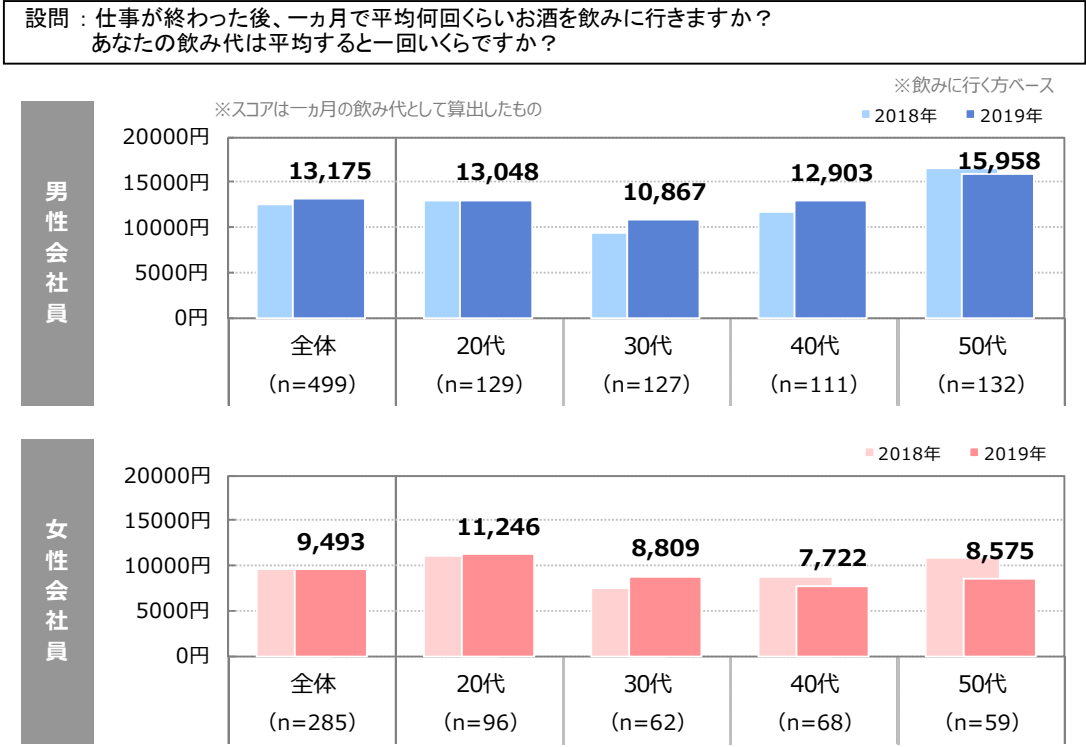
設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？



■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性社員の1カ月の飲み代は、前年より669円増え、13,175円となりました。年代別にみると、30、40代は前年より増加しているものの、50代は前年より減少しています。

女性社員は、男性社員より3,682円低い9,493円という結果になりました。年代別にみると、50代で前年より大幅に減少している点が特徴的です。



【4】働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化

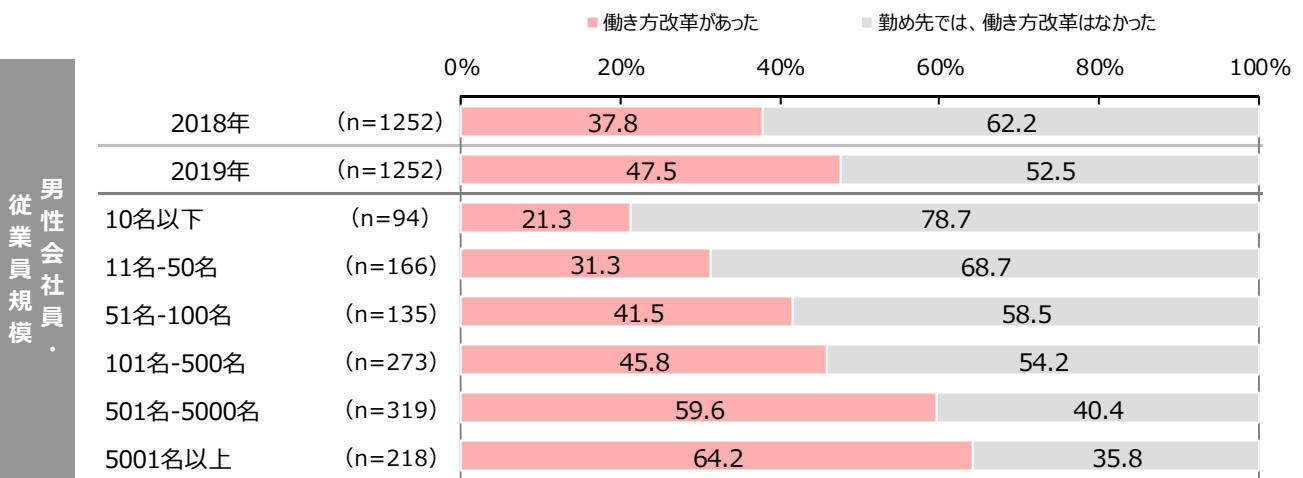
- ▶ 男性会社員では、「職場で働き方改革があった」が前年より10%ほど増加し、47.5%。従業員規模が大きいほど割合は高くなる
- ▶ 働き方改革の内容としては、「残業が減った」が49.7%、「有給が取りやすくなった」が44.2%、「定時で帰宅できる日数が増えた」が22.0%と続く。従業員規模が5,000名以上の企業では、「多様な形態で働けるようになった」が20.7%と、働き方改革がより踏み込んだ内容にまで及んでいる
- ▶ 働き方改革により約4割(43.2%)が「支出が増えた」と回答し、前年より3.7%と若干減少している。20代男性会社員は59.3%と若年層ほど支出が増加傾向。全体の内訳は「食費(飲み代除く)」33.1%、「飲み代」26.8%、「子供の教育関連の費用」が17.9%と続く

2019年4月1日から「働き方改革関連法」が施行され、「長時間労働の是正」や「多様で柔軟な働き方の実現」などの改善が目まぐるしく進んでいます。では、企業の働き方改革により、会社員のお小遣いにどのような影響があったのでしょうか。

男性会社員における、働き方改革の有無は、47.5%が「働き方改革があった」と回答しており、前年よりも10%ほど増加しています。従業員規模別でみると、従業員規模が大きいほど、働き方改革があった方が多い傾向がみられます。

働き方改革があった人における働き方改革の内容は、「残業が減った」が49.7%で最も高く、「有給が取りやすくなった」44.2%、「定時で帰宅できる日数が増えた」22.0%が続く結果となっています。前年と比較して、「有給が取りやすくなった」、「取得できる有給の日数が増えた」が増加している点が特徴です。

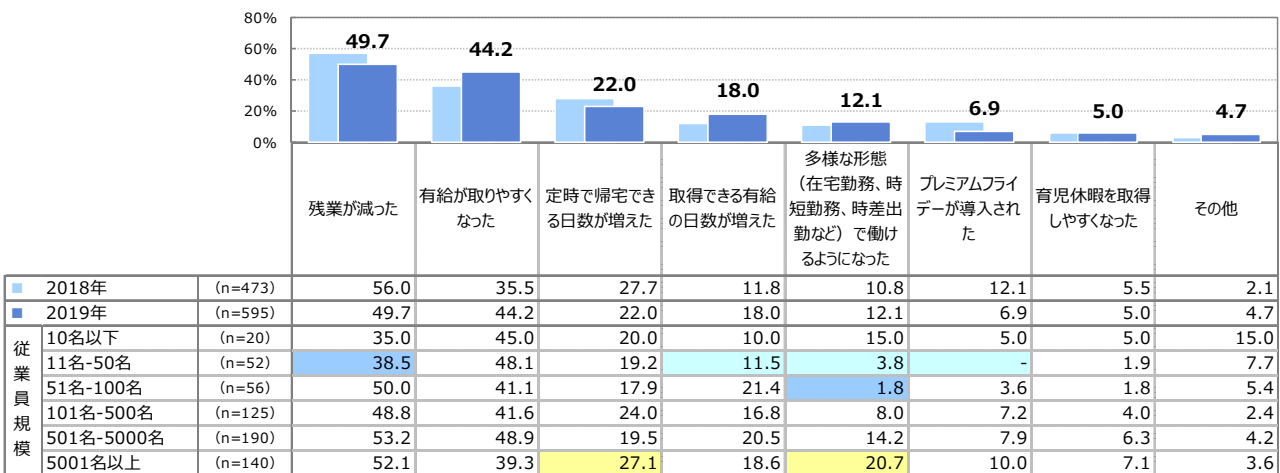
設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



働き方改革の内容

男性会社員

※働き方改革があった方ベース



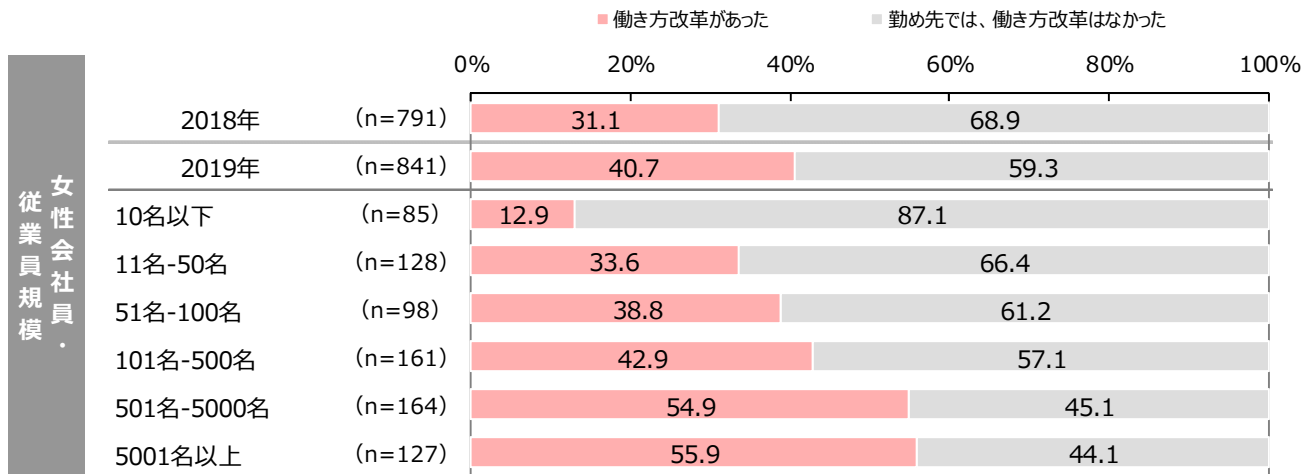
■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

※n=30未満は参考値として掲載

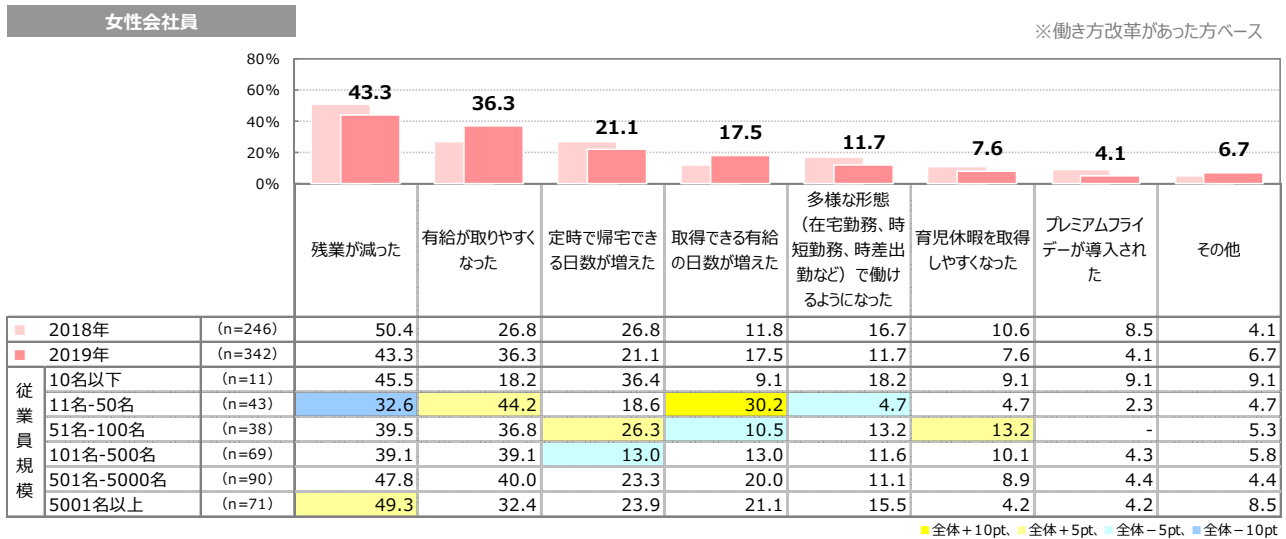
女性社員における、働き方改革の有無は40.7%が「働き方改革があった」と回答しており、男性社員同様、前年よりも10%ほど増加しております。

働き方改革の内容は、「残業が減った」が43.3%で最も高く、「有給が取りやすくなった」36.3%、「定時で帰宅できる日数が増えた」21.1%が続き、男性社員と同様の結果となりました。また、「取得できる有給の日数が増えた」も男性社員同様、前年と比較して増加しております。

設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



働き方改革の内容



※n=30未満は参考値として掲載

■ 働き方改革による支出の変化

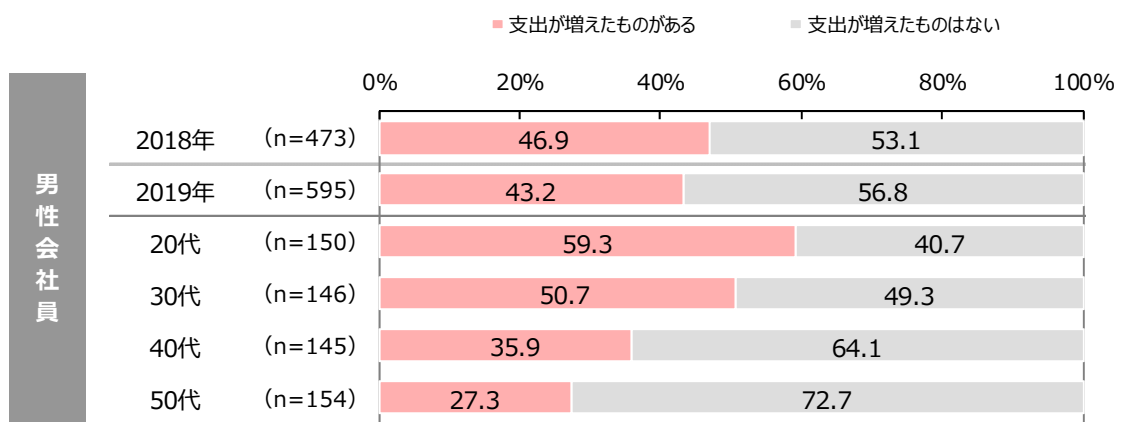
次に、働き方改革があった方の、働き方の変化による支出への影響をみていきます。

男性会社員では、43.2%の方が、働き方改革によって「支出が増えたものがある」と回答しています。前年と比較すると、「支出が増えたものがある」の回答は減少しております。また、年代別にみると、若年層ほど支出が増えた方が多い傾向がみられます。

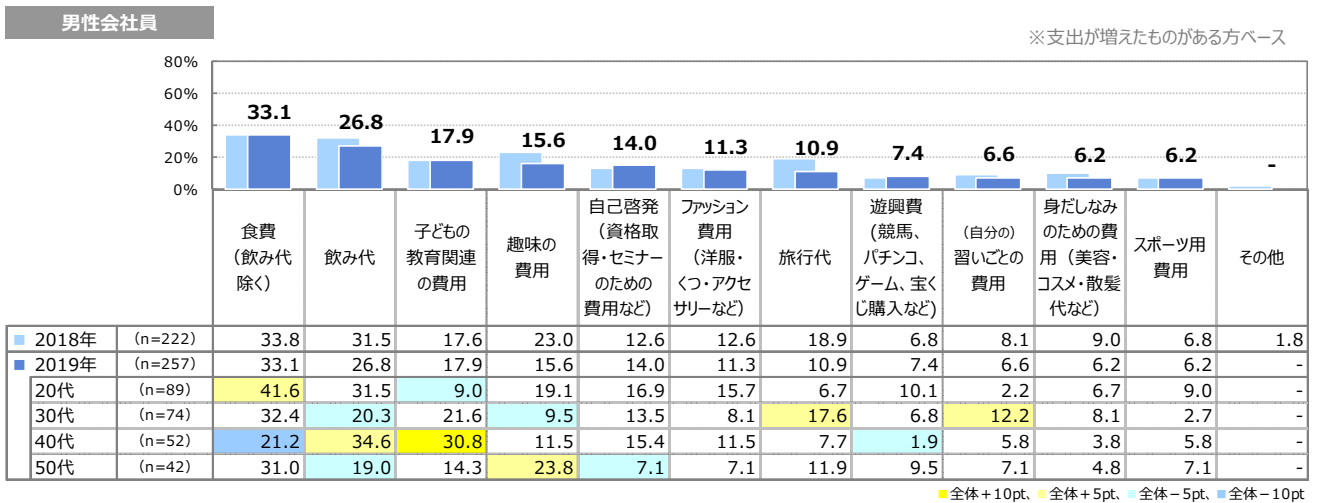
支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が33.1%で最も高く、「飲み代」26.8%、「子供の教育関連の費用」17.9%と続いており、飲食費、教育関連費が増えていることがわかります。前年と比較すると、「趣味の費用」、「旅行代」が大きく減少しております。また、年代別にみると、40代で「子どもの教育関連の費用」が高い点が特徴的です。

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものがありますか。
ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

※働き方改革があった方ベース



支出が増えたもの

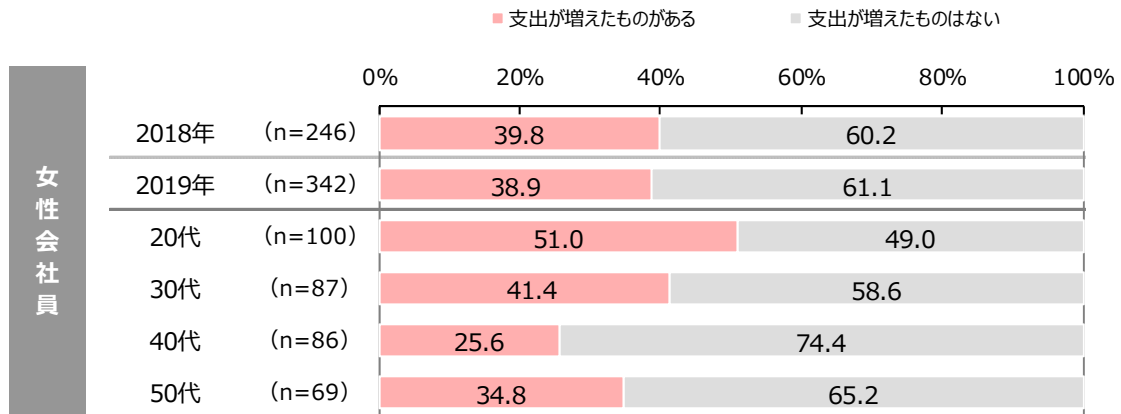


女性社員においては、38.9%の方が「支出が増えたものがある」と回答しています。年代別の傾向では、20代で支出が増えた方が多い傾向がみられます。

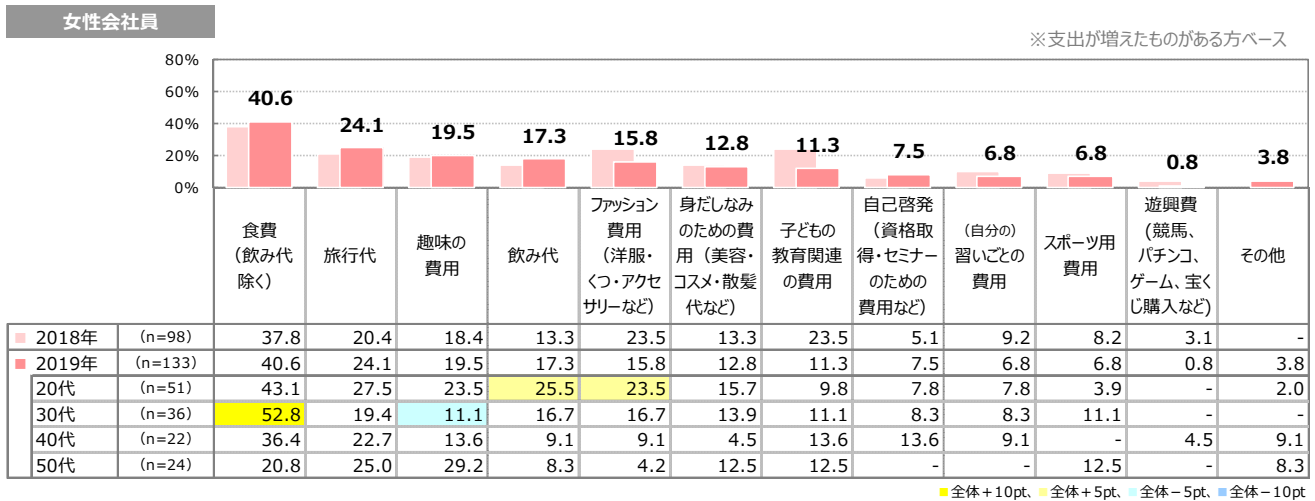
支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が40.6%で最も高く、「旅行代」24.1%、「趣味の費用」19.5%と続いており、男性社員と比較して、旅行代が増加している点が特徴的です。

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものがありますか。
ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

※働き方改革があった方ベース



支出が増えたもの



■全体+10pt、■全体+5pt、■全体-5pt、■全体-10pt

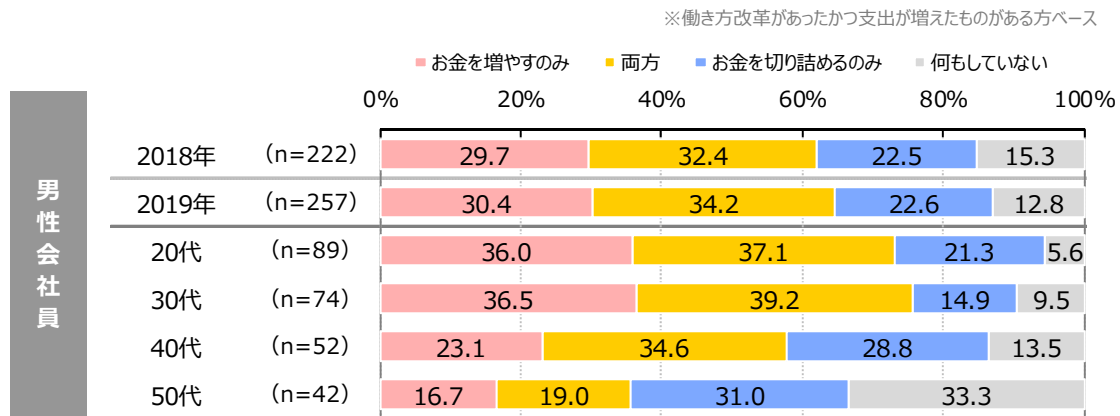
※n=30未満は参考値として掲載

■ 支出が増えた分のまかない方

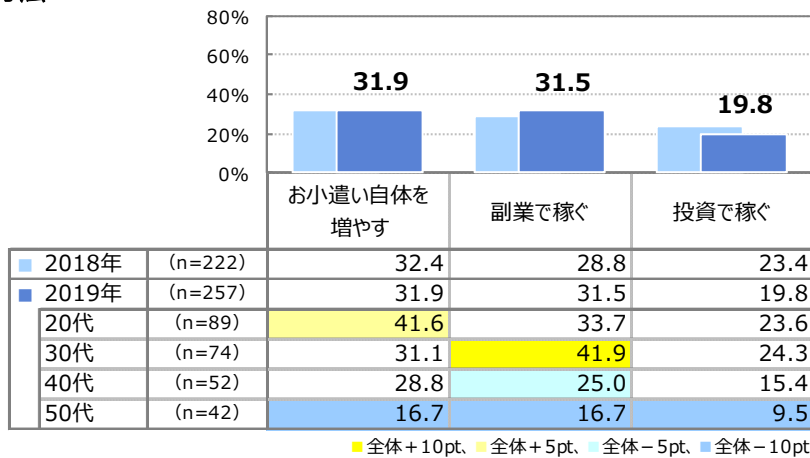
では、支出が増えた方は、増えた分のお金をどのようにして賄っているのでしょうか。

男性社員における、支出が増えた分の賄い方は、「お金を増やすのみ」が30.4%、「お金を切り詰めるのみ」が22.6%、「両方」行っている方が34.2%となっており、8割強の方が何かしらの行動をしています。お金を増やす方法では、「お小遣い自体を増やす」が31.9%で最も高く、若年層ほど高い点が特徴的です。一方、お金を切り詰める方法では、「飲み代」が27.6%で最も高く、「昼食代」26.1%と続くことから、飲食代で切り詰める傾向がみられます。

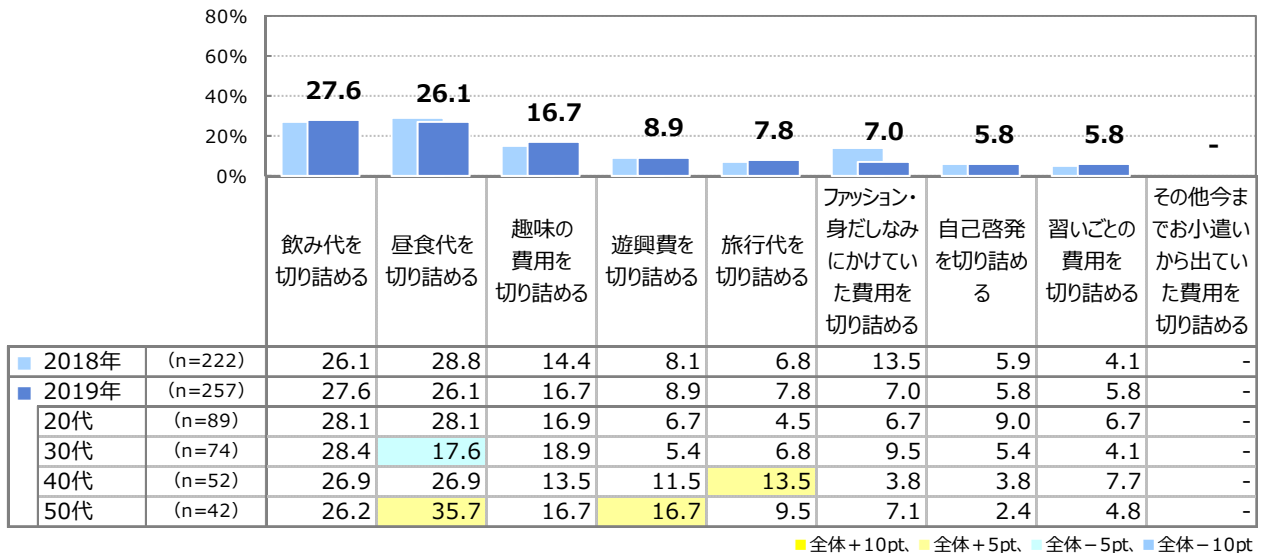
設問：支出が増えた／増える分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。



■ お金を増やす方法



■ お金を切り詰める方法

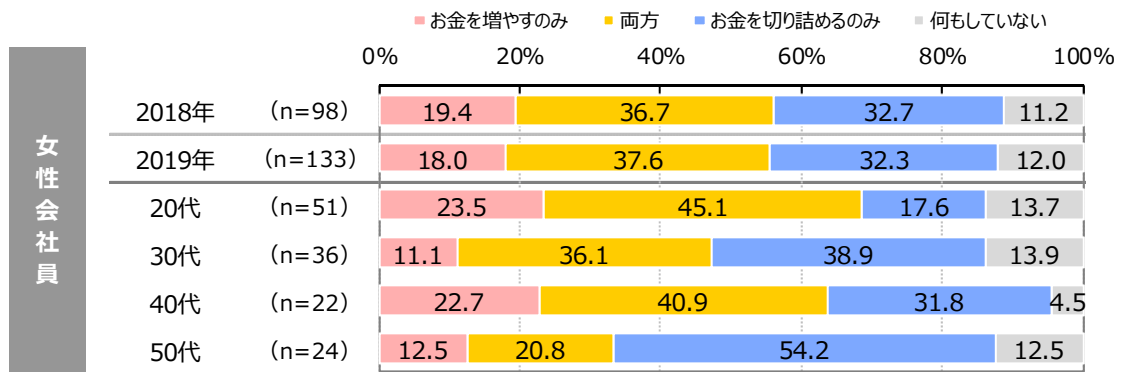


女性会社員では、「お金を増やすのみ」が18.0%、「お金を切り詰めるのみ」が32.3%、「両方」行っている方が37.6%となっており、男性会社員と比較して、「お金を切り詰める」方が多い傾向がみられます。

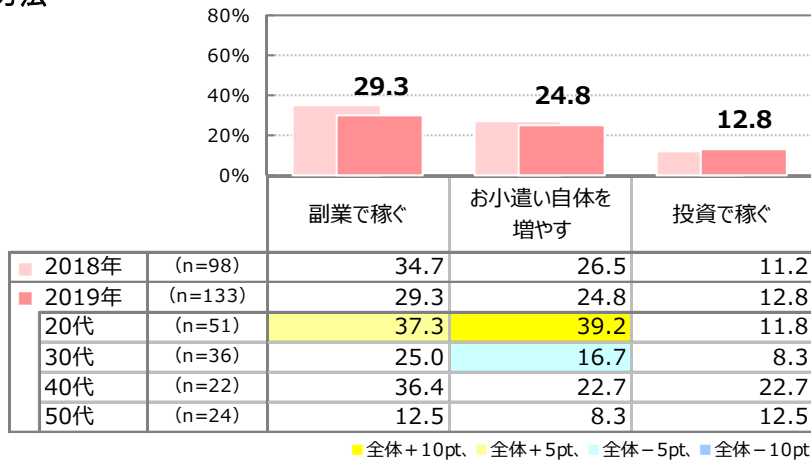
お金を増やす方法は、「副業で稼ぐ」が29.3%と最も高く、若年層ほど高い点が特徴的です。一方、お金を切り詰める方法は、「昼食代」が45.1%で最も高く、「ファッション・身だしなみにかけている費用」34.6%と続きます。男性会社員と比較して、「飲み代」を切り詰める方は少ない結果となっております。

設問：支出が増えた／増える分を、どのように賅っていますか(賅う予定ですか)。

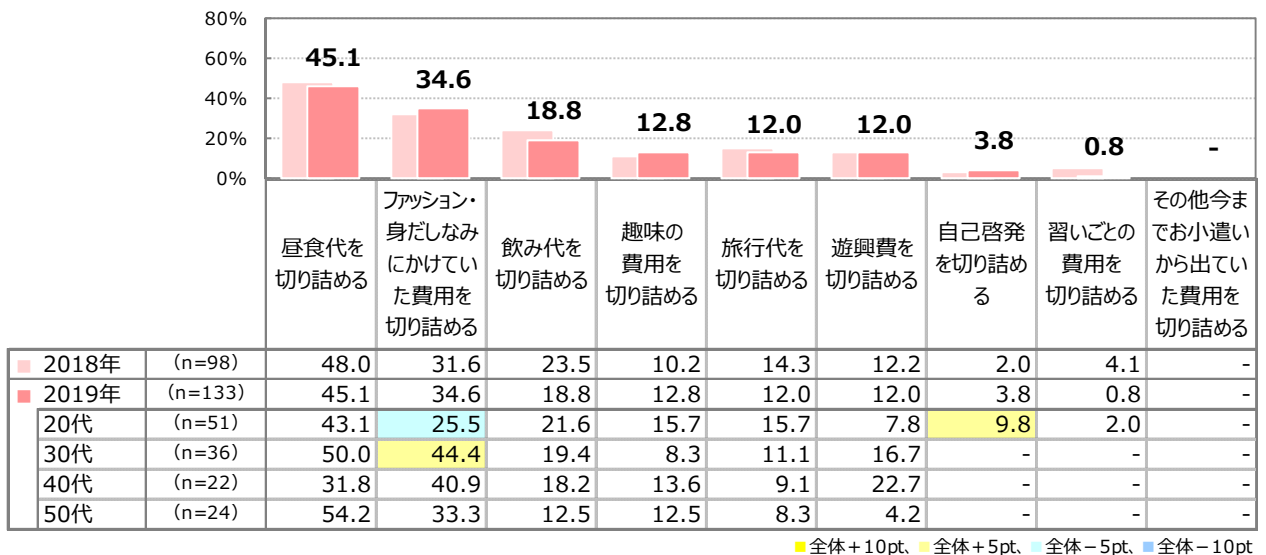
※働き方改革があったかつ支出が増えたものがある方ベース



■ お金を増やす方法



■ お金を切り詰める方法



【5】消費税の負担感、経済的なゆとり

- ▶ 男性会社員では、消費税に負担を感じる人の割合が73.2%と前年と同水準であり、依然として高い
- ▶ 女性会社員では、消費税に負担を感じている人の割合が男性会社員より7.3%高い80.5%
- ▶ 消費税10%への負担感はさらに高く、男女ともに消費税8%の場合より約10%高くなる
- ▶ 『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認した結果、男性、女性会社員ともに「苦しい」層が半数以上を占め、特に女性会社員は「年収低×苦しい」層が最も多く32.2%を占める

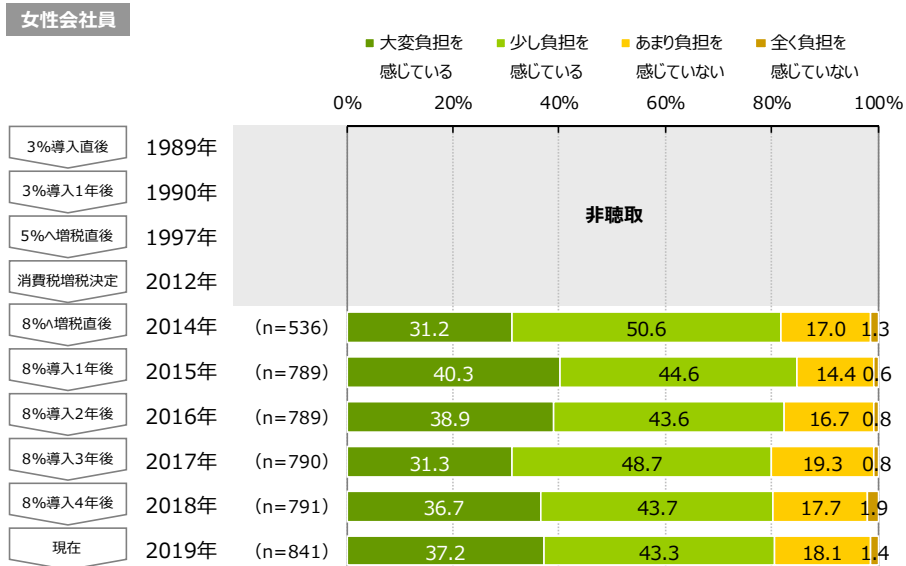
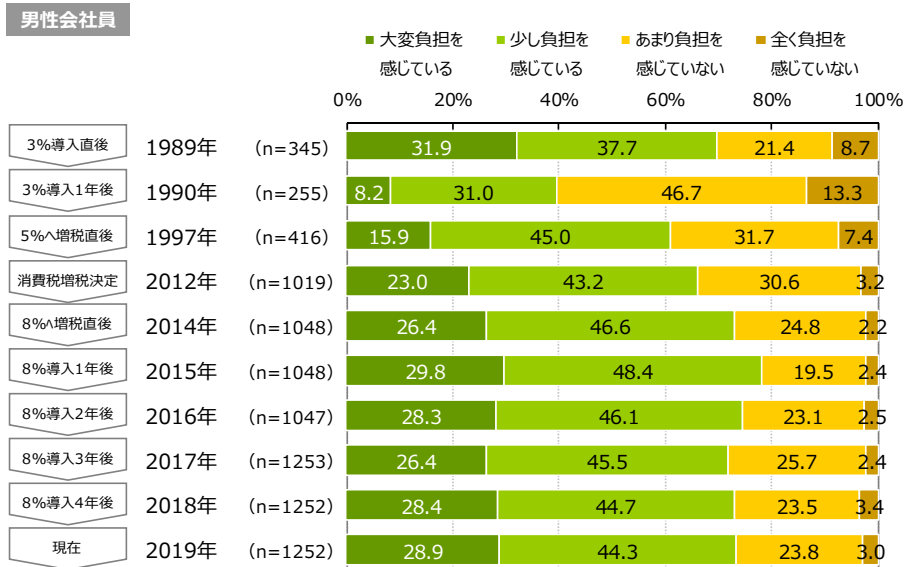
■ 消費税によるお小遣いの負担感

2014年4月1日より、消費税率が5%から8%に引き上げられました。増税から5年が経過し、お小遣い面での消費税による負担はどのように変化したのでしょうか。

男性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が73.2%と、前年と同水準となっております。

女性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が80.5%と、前年同様、男性会社員よりも負担に感じている方が多いようです。

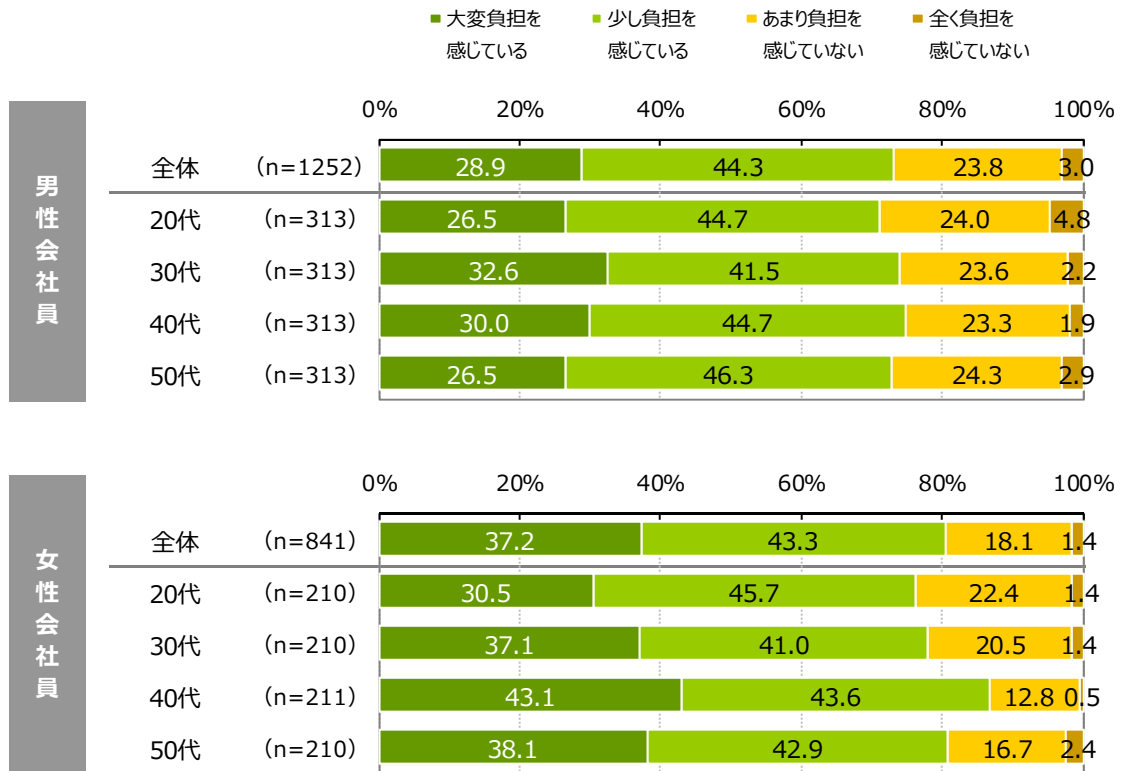
設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。



男性会社員における消費税の負担感を、年代別にみると、30代、40代で「大変負担を感じている」層高くなっておりま
す。

女性会社員では、30代、40代、50代で「大変負担を感じている」層が高くなっておりませんが、いずれの年代でも男性より
負担を感じている様子がみられます。

設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。

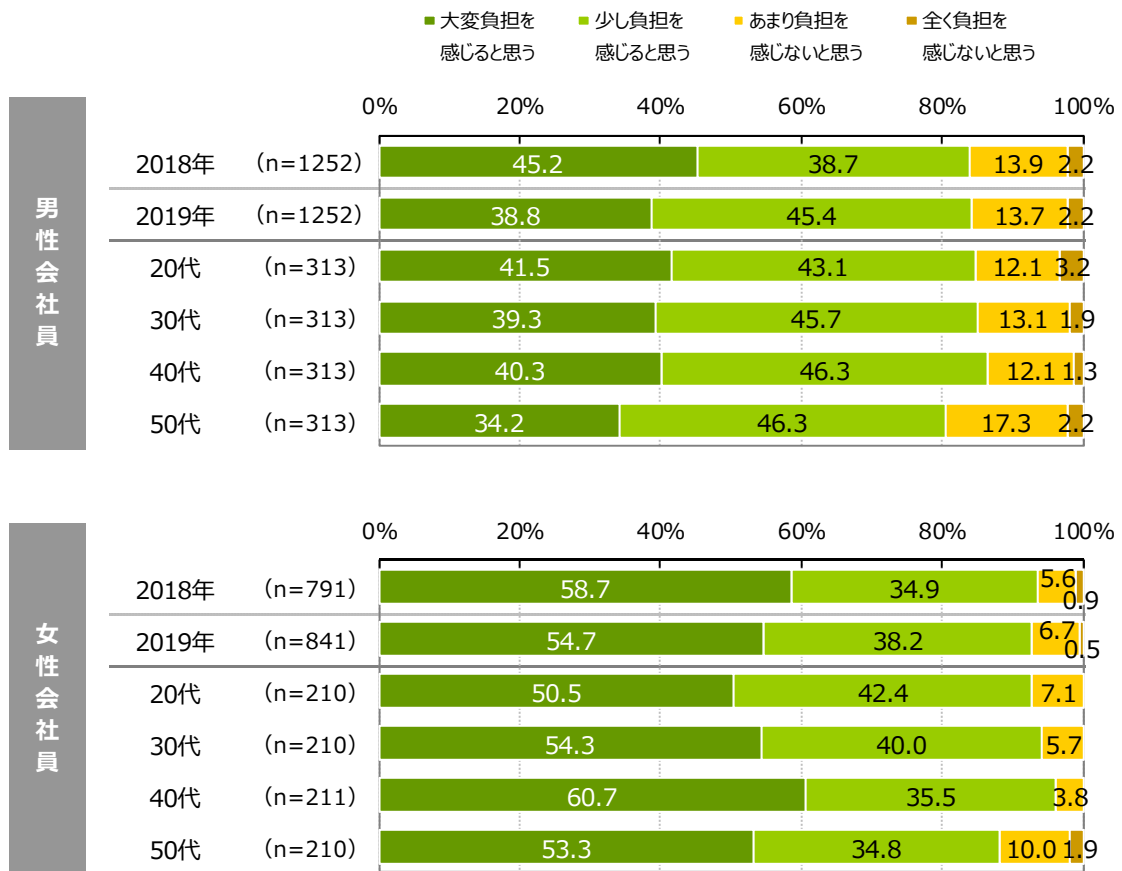


また、消費税が10%に引き上げられた場合の消費税の負担感を聞くと、男性会社員では、負担を感じると思う(「大変負担を感じると思う」+「少し負担を感じると思う」層が84.2%と、消費税8%の負担を感じている(73.2%)と比較して約10%高くなります。また、前年と比較すると、負担を感じると思う(「大変負担を感じると思う」+「少し負担を感じると思う」)は同水準であるものの、「大変負担を感じると思う」は前年よりも減少しております。

女性会社員でも、負担を感じると思う(「大変負担を感じると思う」+「少し負担を感じると思う」層が92.9%と、消費税8%の負担を感じている(80.5%)と比較して約10%高くなります。

男性会社員、女性会社員ともに、消費税が10%に引き上げられることによるお小遣いへの影響の大きさが予想されま

設問：あなたは、今後消費税が10%に引き上げられた場合、“おこづかい”の面でどの程度負担を感じると思いますか。



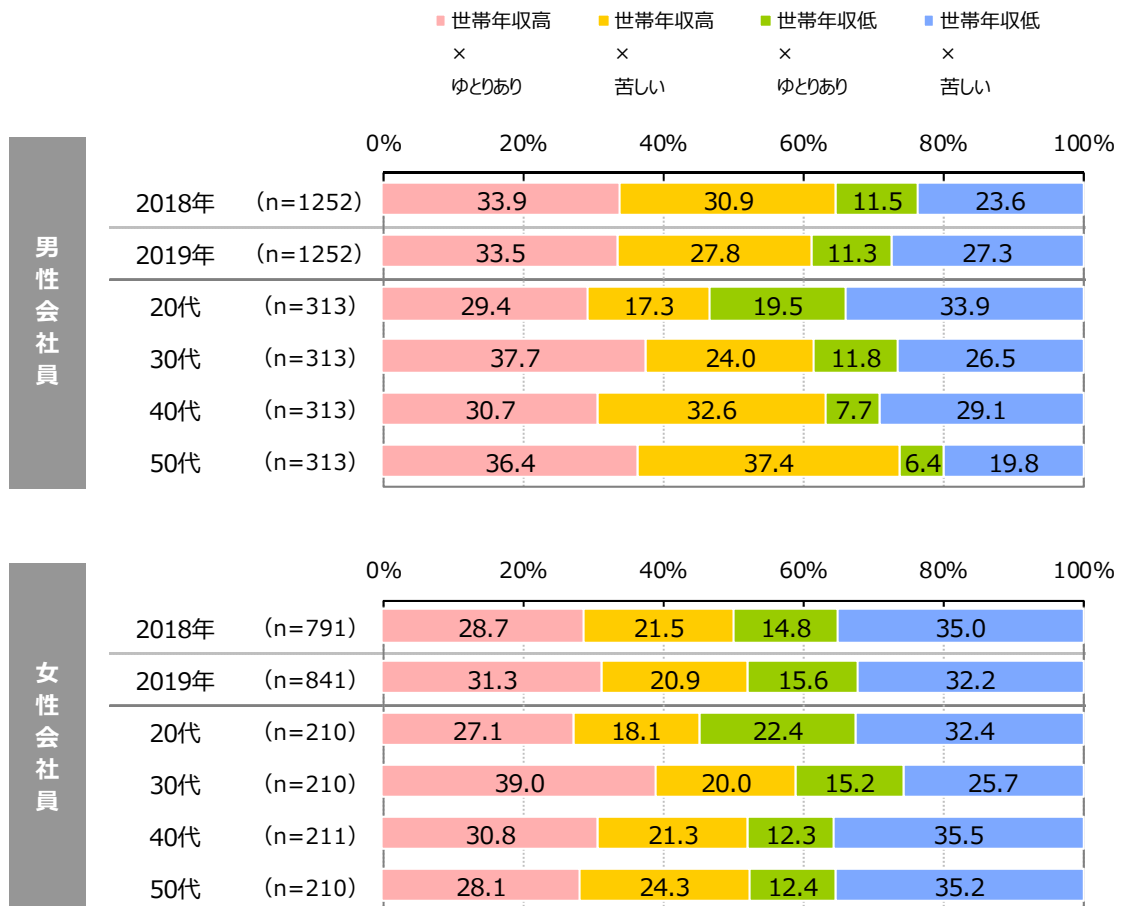
■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、前年同様「世帯年収低×ゆとりあり」層が11.3%と最も少なく、「世帯年収高×ゆとりあり」と「世帯年収高×苦しい」、「世帯年収低×苦しい」がそれぞれ3割程度を占めています。前年と比較すると、「世帯年収低×苦しい」が増加しております。また、年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が19.5%と他の年代よりも高くなっており、未婚率の高い20代は、世帯年収が低くても、ある程度ゆとりを持って生活できていることがわかります。一方で、年代が上がるほど、「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が32.2%とボリュームゾーンになっております。男性会社員と比較して、年代が上がるほど「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている傾向が顕著にみられない結果となっております。

設問：“おこづかい”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

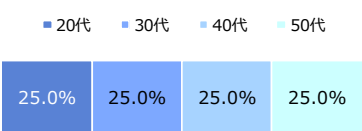
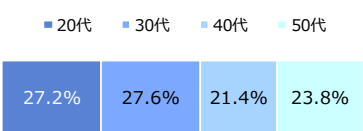
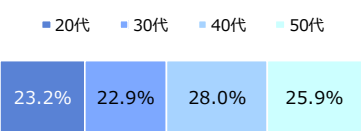
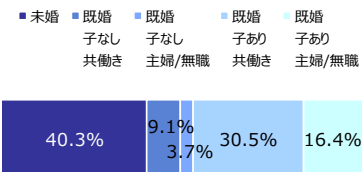
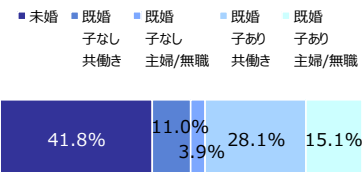
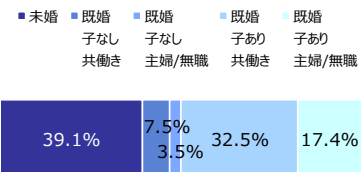


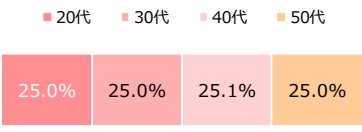
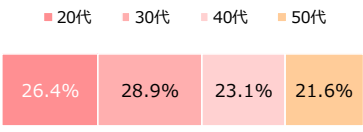
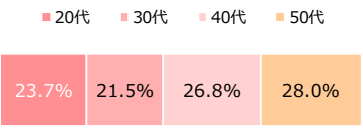
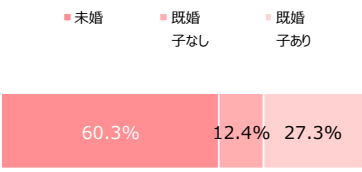
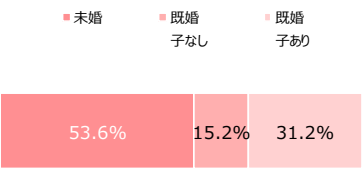
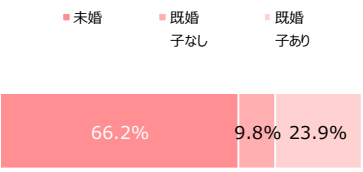
■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを以下に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代、30代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体と比較して、個人年収は72万円、世帯年収では101万円高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、全体より40代が多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」も、男性会社員同様、20代、30代がやや多く、個人年収、世帯年収ともに高い結果となっています。

	男性会社員 全体 (n=1252)	ゆとりがある層 (n=562)	ゆとりがない層 (n=690)
年齢			
年収	個人年収 521 万円 世帯年収 659 万円	個人年収 593 万円 世帯年収 760 万円	個人年収 463 万円 世帯年収 577 万円
家族構成			

	女性会社員 全体 (n=841)	ゆとりがある層 (n=394)	ゆとりがない層 (n=447)
年齢			
年収	個人年収 320 万円 世帯年収 606 万円	個人年収 373 万円 世帯年収 726 万円	個人年収 274 万円 世帯年収 501 万円
家族構成			

【6】 お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が43.1%、「携帯電話代」が25.1%、「嗜好品代」が18.8%。女性会社員は「昼食代」が36.6%、「携帯電話代」が36.2%、「身だしなみのための費用」が31.1%
- ▶ 男性会社員の78.9%、女性会社員の89.4%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は、男性会社員は「昼食費を安くする」、女性会社員は「弁当を持参する」がトップ
- ▶ 男女とも2割強は副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均29,104円に対し、女性会社員は平均13,155円と金額に15,949円の差がある

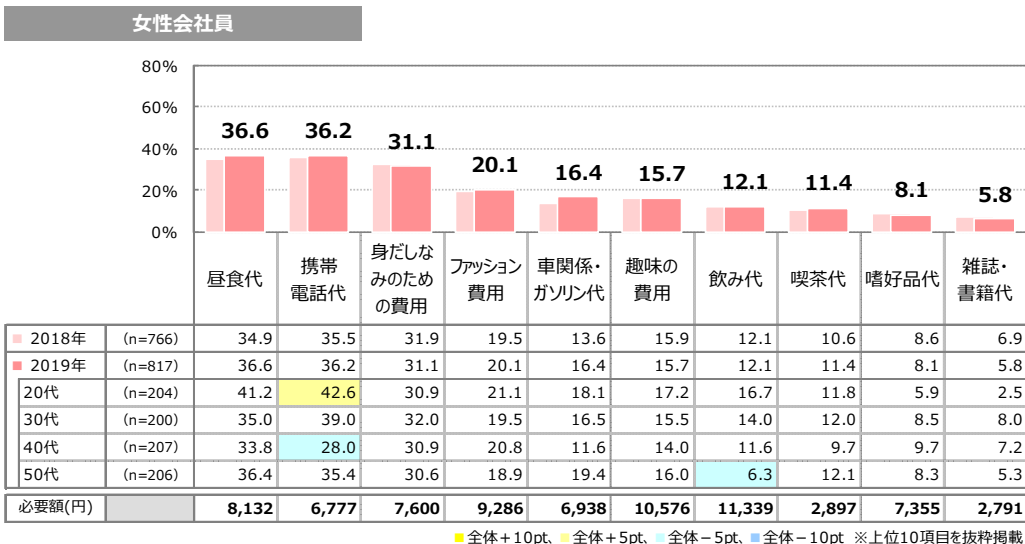
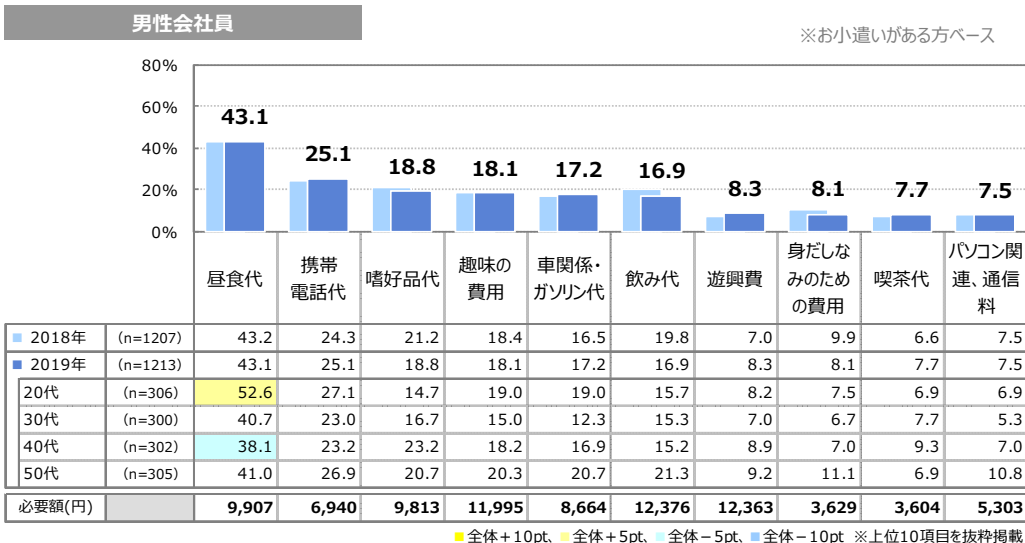
■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が他項目に比べて20%程度高く、前年同様トップとなりました。「昼食代」の必要額は平均9,907円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては6番目に高い「飲み代」となっております。

女性会社員も、男性会社員同様、「昼食代」が36.6%と最も高く、以下「携帯電話代」、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が続きます。必要額が最も高い項目は、「飲み代」で11,339円という結果となりました。

設問：あなたの“おこづかい”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



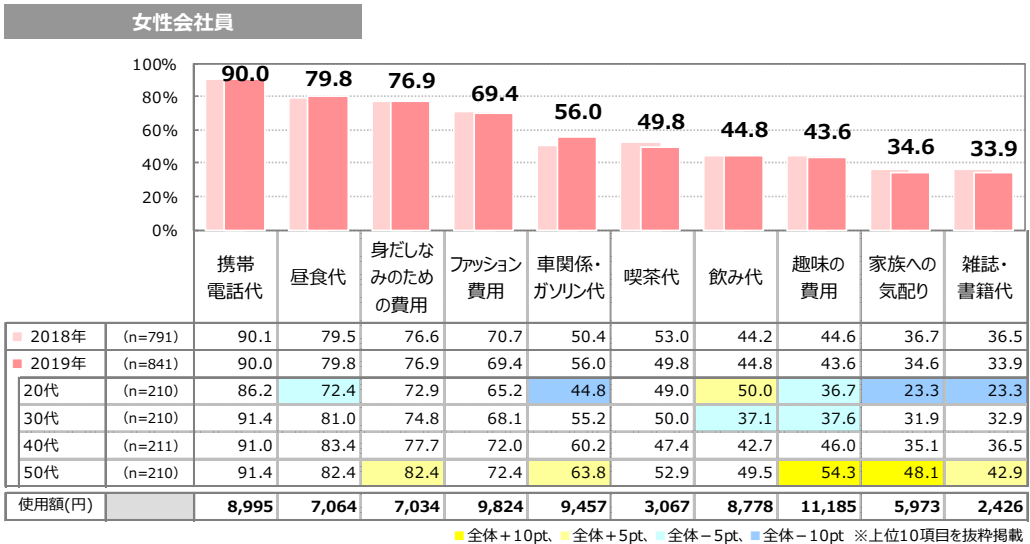
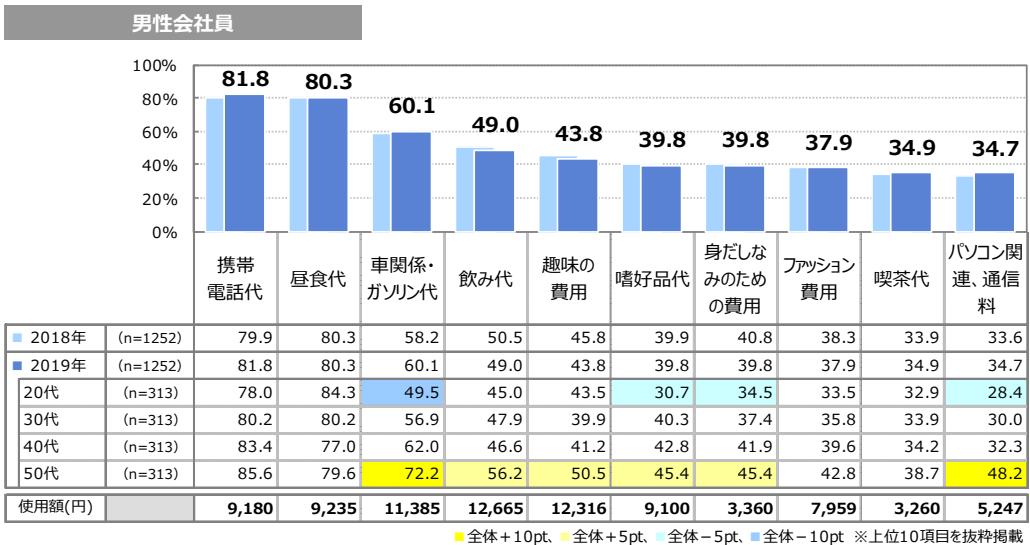
■ 月々の出費

月々の出費として使用している項目の上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「携帯電話代」が81.8%と最も高く、以下「昼食代」、「車関係・ガソリン代」が続きます。なお、使用額が最も高い項目は「飲み代」で12,665円となっております。

女性会社員では、「携帯電話代」が90.0%と最も高く、以下「昼食代」、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が続きます。男性会社員と比較して、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が上位に来ており、男性会社員と女性会社員で、「携帯電話代」や「昼食代」以外のお金のかけ方に違いがみられます。

設問：あなたは、下記の項目に月々いくらかけていますか。



■ お小遣いのやりくりと節約術

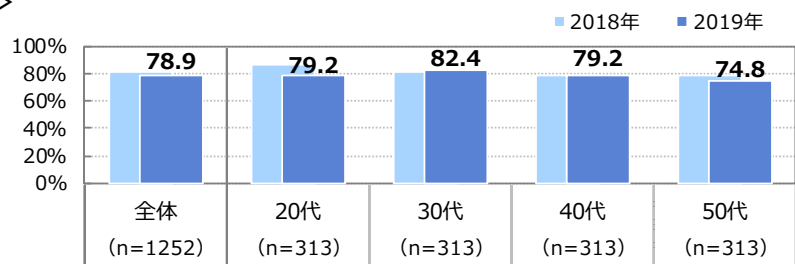
男性会社員における、お小遣いのやりくり実施率は78.9%と、比較的多くの方が、何かしらの節約策を実行していることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「水筒を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっています。

女性会社員におけるやりくり実施率は、男性会社員よりも高く、約9割の方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「弁当を持参する」、「昼食費を安くする」、「水筒を持参する」といった、オフィスでの飲食に関する節約策が上位に挙げられます。また男性会社員と比較して、洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、“おこづかい”面でみて、ここ最近、やりくりをすることがありますか。

男性会社員

<やりくり実施率>



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

具体的なやりくり術

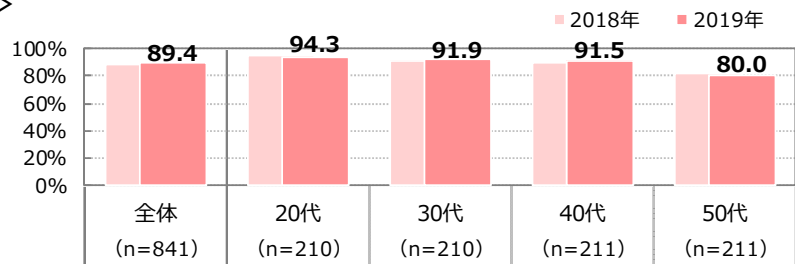
(%)

やりくり術	2018年	2019年
昼食費を安くするように努力している	37.9	40.9
外で飲む回数を減らしている	29.1	29.7
水筒を持参するようにしている	27.0	22.7
弁当を持参するようにしている	24.6	24.3
衝動買いをしないようにしている	22.1	23.0
少し遠くても歩くようにしている	21.3	22.0
タクシーなどに乗らないようにしている	19.6	21.1

※上位7項目を抜粋掲載

女性会社員

<やりくり実施率>



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

具体的なやりくり術

(%)

やりくり術	2018年	2019年
弁当を持参するようにしている	49.1	52.4
昼食費を安くするように努力している	45.4	53.3
水筒を持参するようにしている	42.2	41.9
衝動買いをしないようにしている	36.7	37.1
洋服・靴など、安いものを買うようにしている	35.7	43.3
洋服・靴などを買わないようにしている	27.2	33.3
タクシーなどに乗らないようにしている	25.4	28.1

※上位7項目を抜粋掲載

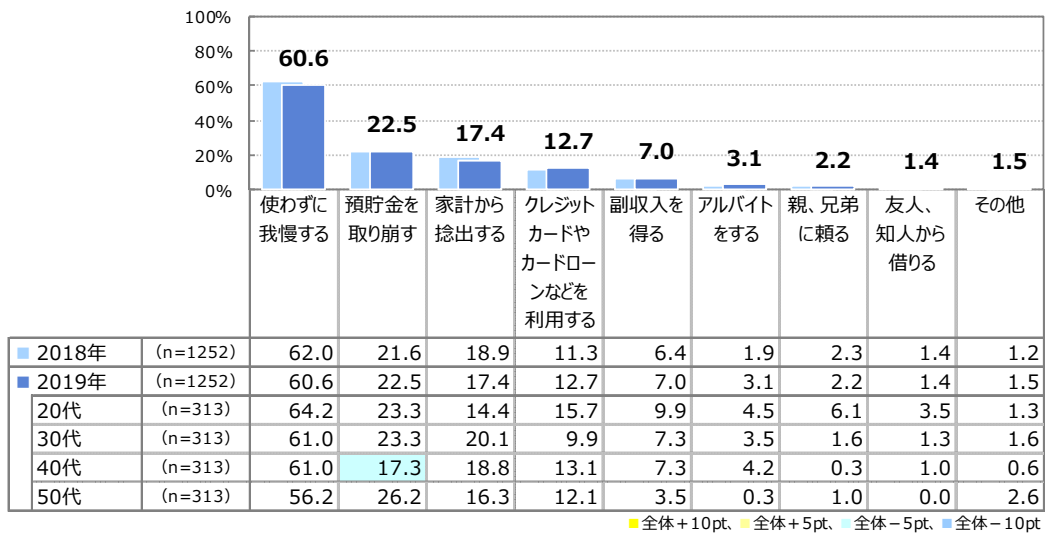
■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が60.6%で突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続き、前年同様、手持ちのお金で対応するケースが多いようです。年代別にみると、「使わずに我慢する」は、若年層ほど高い点が特徴的です。

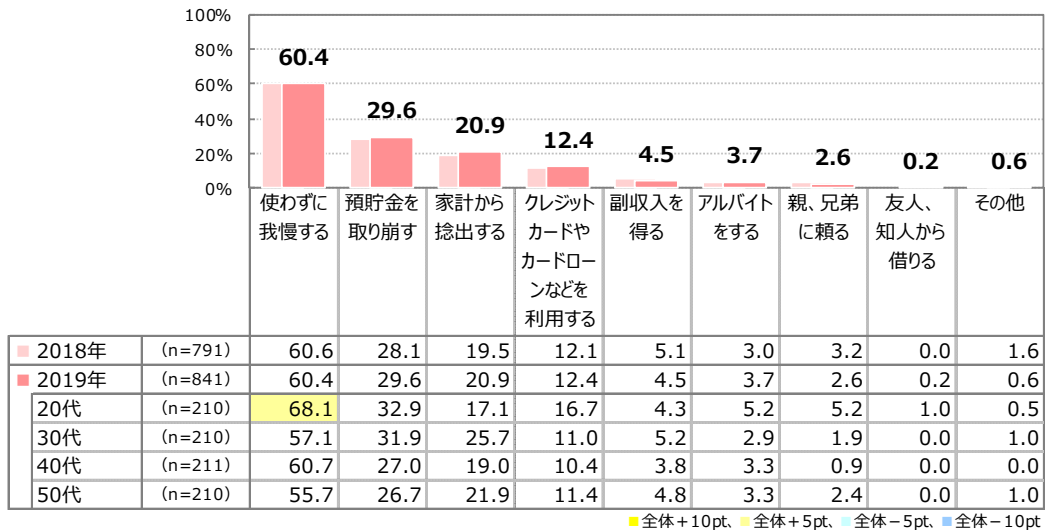
女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が60.4%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点も共通しております。

設問：“おこづかい”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

男性社員



女性社員



■ 副収入事情

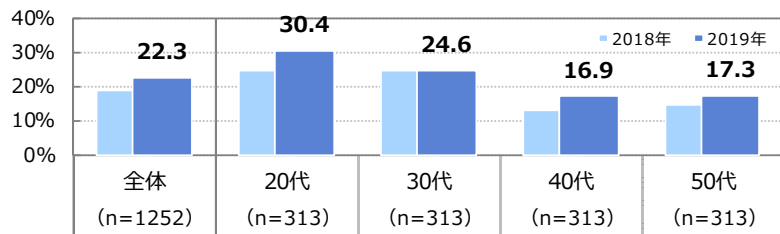
男性社員の22.3%は副収入があり、1ヵ月あたりに3万円近い収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が58.1%と最も多く、「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別にみると、副収入を得ている割合は、20代、30代で高い傾向がみられます。また、50代では副収入を得ている割合は少ないものの、副収入額は最も高く、「不動産投資」の割合が多いことが起因していると推測できます。

女性社員も、男性社員とほぼ同様の傾向ですが、1ヶ月あたりの副収入額は、男性社員の半分以下という結果です。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？
どのような方法で副収入を得ていますか？

男性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

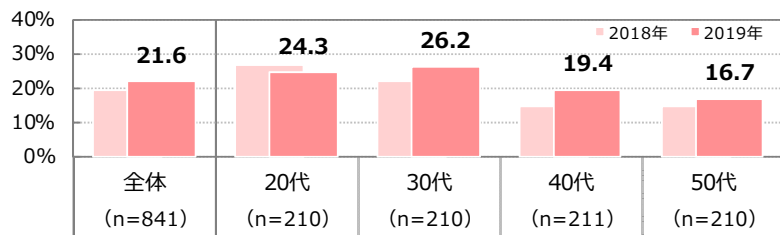
1ヶ月当たりの副収入額	(n=276)	(n=95)	(n=77)	(n=52)	(n=52)
	29,104円	14,896円	19,278円	41,510円	57,208円

収入源	2018年 (%)	2019年 (%)	2018年 (%)	2019年 (%)	2018年 (%)	2019年 (%)
ポイントサイト、アンケートサイト	58.1	64.2	63.6	54.7	42.6	
株式投資	22.2	18.9	26.0	28.3	16.7	
アルバイト・副業	20.8	15.8	19.5	30.2	22.2	
FX等の外国為替取引	12.9	12.6	19.5	11.3	5.6	
ネットオークション	11.5	9.5	14.3	15.1	7.4	
不動産投資 (売買収益、賃貸収入など)	7.5	6.3	2.6	9.4	14.8	
フリーマーケット	7.2	10.5	10.4	3.8	0.0	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

女性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

1ヶ月当たりの副収入額	(n=180)	(n=51)	(n=53)	(n=41)	(n=35)
	13,155円	7,167円	5,809円	16,329円	29,286円

収入源	2018年 (%)	2019年 (%)	2018年 (%)	2019年 (%)	2018年 (%)	2019年 (%)
ポイントサイト、アンケートサイト	68.7	80.4	78.2	53.7	54.3	
アルバイト・副業	23.1	17.6	12.7	39.0	28.6	
フリーマーケット	15.9	23.5	16.4	12.2	8.6	
株式投資	12.1	11.8	18.2	9.8	5.7	
ネットオークション	8.2	7.8	12.7	2.4	8.6	
懸賞	4.4	5.9	7.3	0.0	2.9	
FX等の外国為替取引	2.7	2.0	5.5	0.0	2.9	

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

※インターネットリサーチを行っているため、「ポイントサイト、アンケートサイト」が高くなっています。

【7】サラリーマンの給与管理状況

- ▶ 既婚男性会社員の約6割が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は53.0%と他世代に比べて低くはあるが、若い世代の約半数がお小遣い制である
- ▶ 既婚女性会社員は、男性会社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低く39.2%

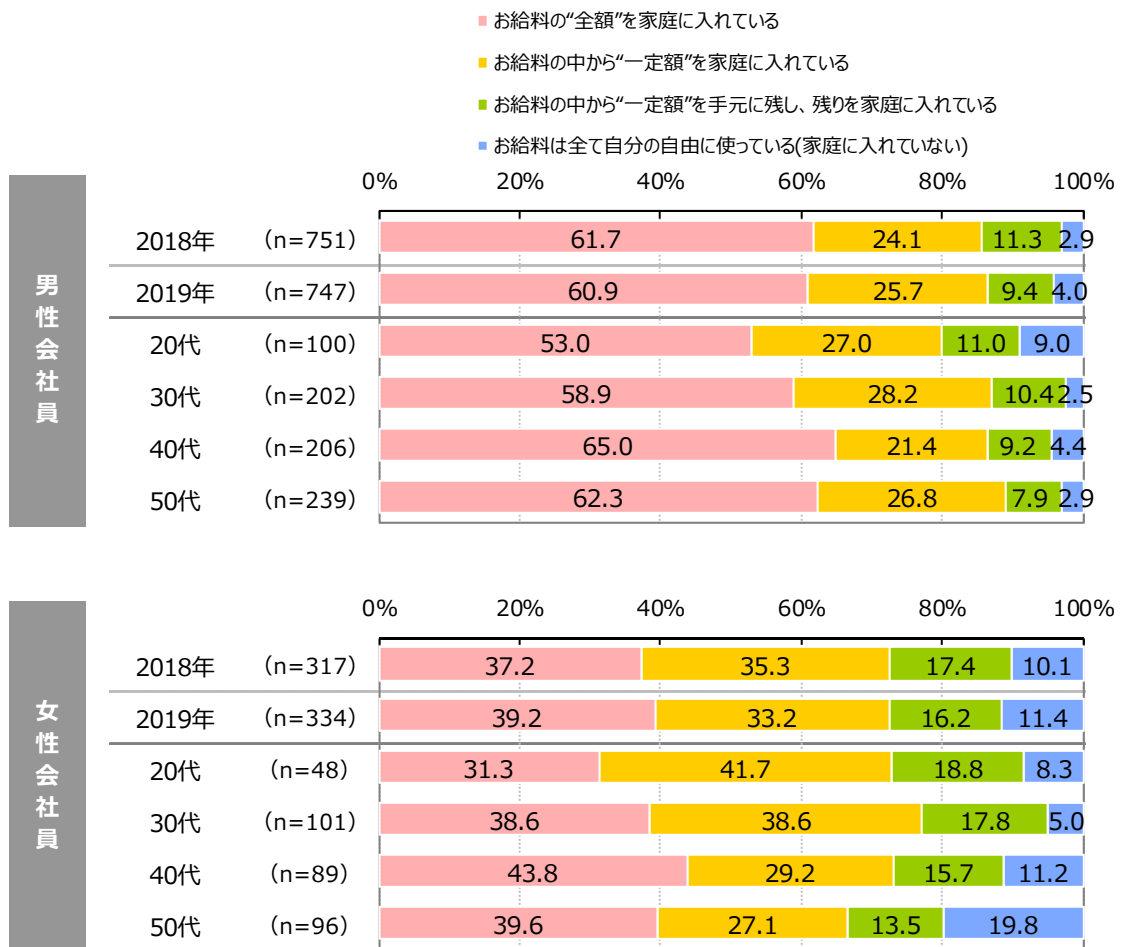
■ 給与管理状況

男性会社員の既婚世帯では、60.9%が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、多くがお小遣い制であることがわかります。年代別にみると、若年層ほど、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が低くなっている点が特徴です。

女性会社員でも、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が最も高いものの、男性会社員と比べて、全額を家庭に入れている割合は低くなっています。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース



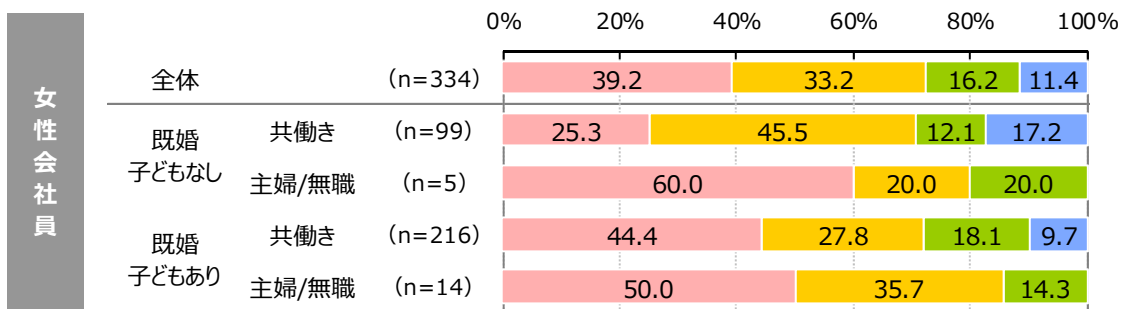
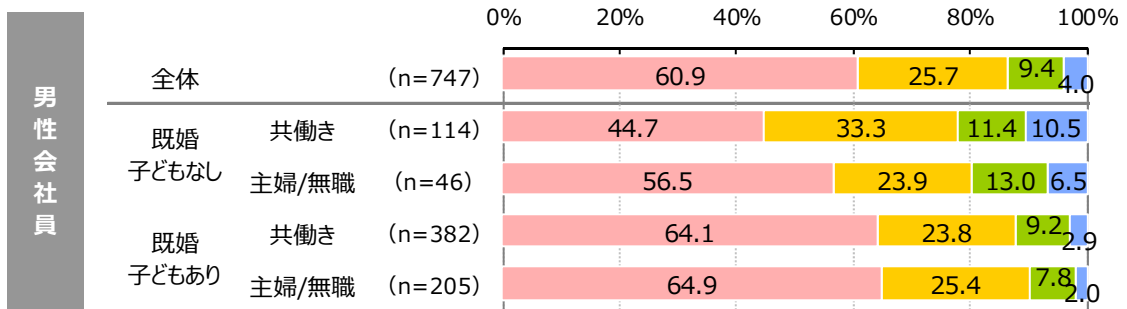
男性会社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料はすべて自分の自由に使っている」が10.5%を占め、全体よりも高い傾向にあります。また、既婚・子供なし世帯では、共働きの世帯よりも、主婦/無職の世帯のほうが、「お給料の“全額”を家庭に入れている」が高くなっています。

女性会社員では、DINKS世帯は「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」が45.5%と全体よりも高い傾向にあります。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

※既婚者ベース

- お給料の“全額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を家庭に入れている
- お給料の中から“一定額”を手元に残し、残りを家庭に入れている
- お給料は全て自分の自由に使っている(家庭に入れていない)



※n=30未満は参考値として掲載

【8】 昼食代・飲み代の支払い手段

- ▶ 男性会社員の昼食代の支払い手段としては、「現金」が86.0%、「電子マネー(計)」44.1%、「クレジットカード」が29.3%が続く。飲み代の支払い方法は、「現金」に加え、「クレジットカード」の割合が45.3%と高くなるのが特徴。女性会社員も同様の傾向
- ▶ 昼食代の支払い手段としては、「現金」以外では「電子マネー」の利用が高く、特に40代で高い。20代や40代男性会社員は「QRコード決済」の利用も高めで、現金以外のさまざまな支払い手段にも抵抗がない様子
- ▶ 飲み代の支払い手段は、男性、女性会社員ともに「現金」が9割強。男性会社員は「クレジットカード」払いの割合が高くなり、4割半ば

■ 昼食代・飲み代の支払い手段

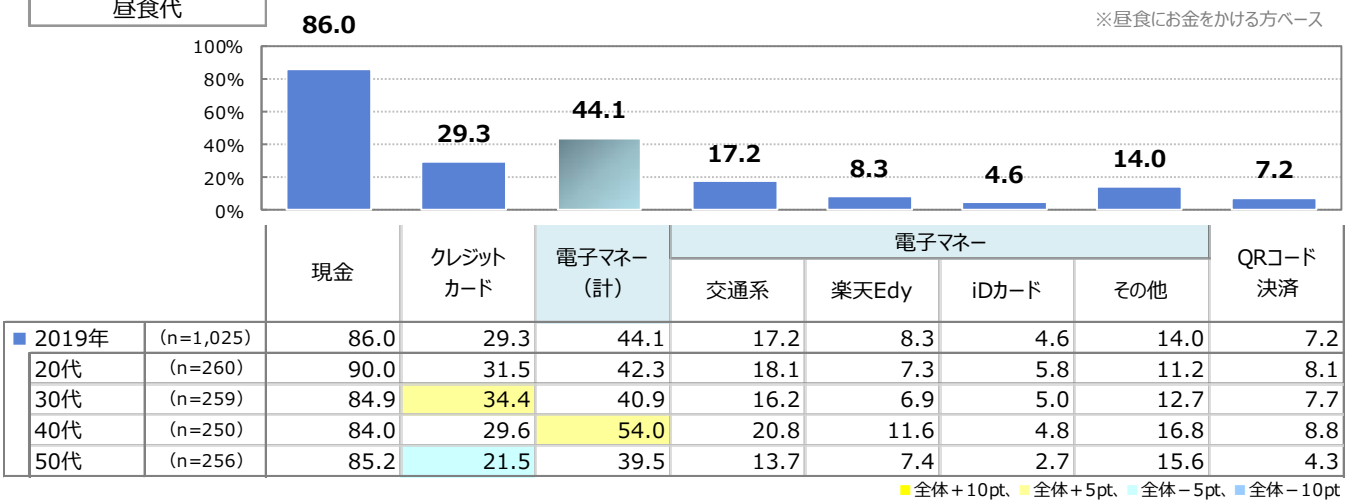
男性会社員の昼食代の支払い手段は、「現金」が86.0%で最も高く、「クレジットカード」29.3%、「電子マネー(計)」44.1%が続きます。性年代別でみると、「クレジットカード」で30代が高い一方、50代が低い点や、「電子マネー(計)」で40代が高い点が特徴的です。

また、飲み代の支払い手段は、「現金」が91.0%と最も高く、「クレジットカード」45.3%、「電子マネー(計)」13.8%が続きます。昼食代と比較して、「電子マネー」ではなく「クレジットカード」が高い点が特徴的です。

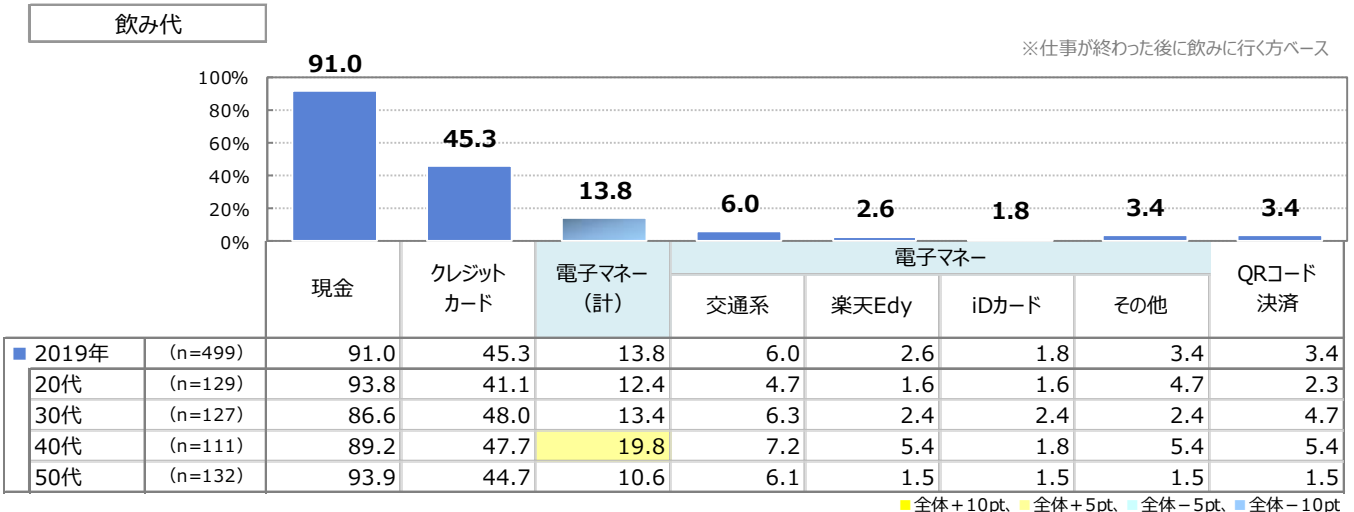
設問：以下の項目について、あなたの支払手段としてあてはまるものをすべてお選びください。

男性会社員

昼食代



飲み代



女性会員の昼食代の支払い手段は、「現金」が89.3%で最も高く、「電子マネー(計)」41.3%、「クレジットカード」28.2%が続きます。

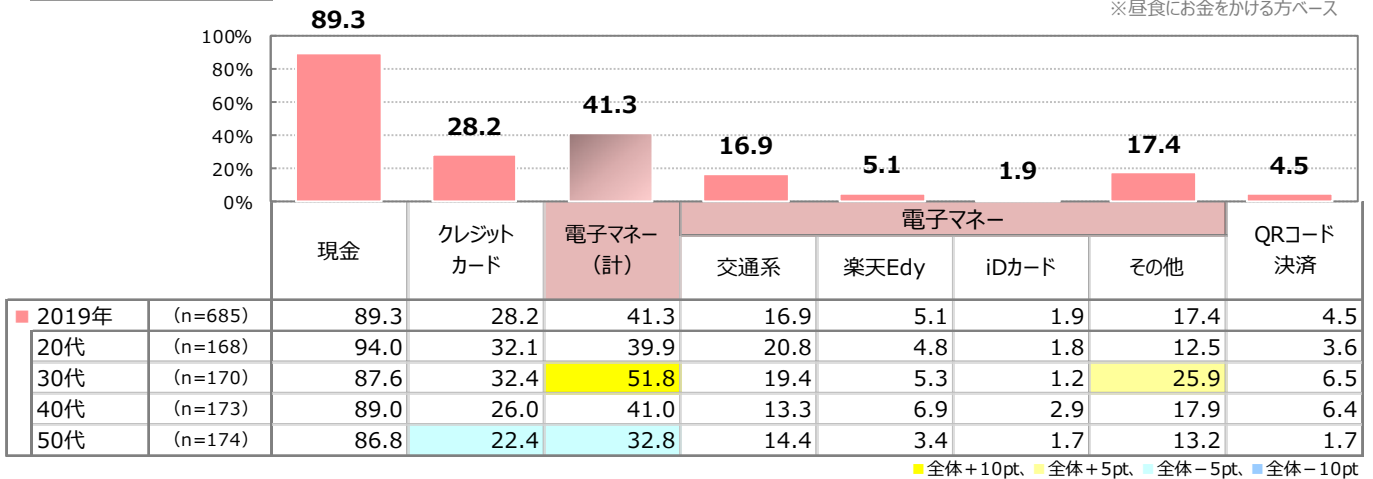
年代別にみると、50代で「クレジットカード」が低い点は男性会社員と同様の傾向がみられ、「電子マネー(計)」では、30代が高く、50代が低いのが特徴的です。

また、飲み代の支払い手段は、「現金」が91.2%で最も高く。「クレジットカード」36.1%が続きます。男性会社員同様、昼食代と比較して、「クレジットカード」が高い傾向は同様ですが、「クレジットカード」の利用率は低い結果となっております。

女性会社員

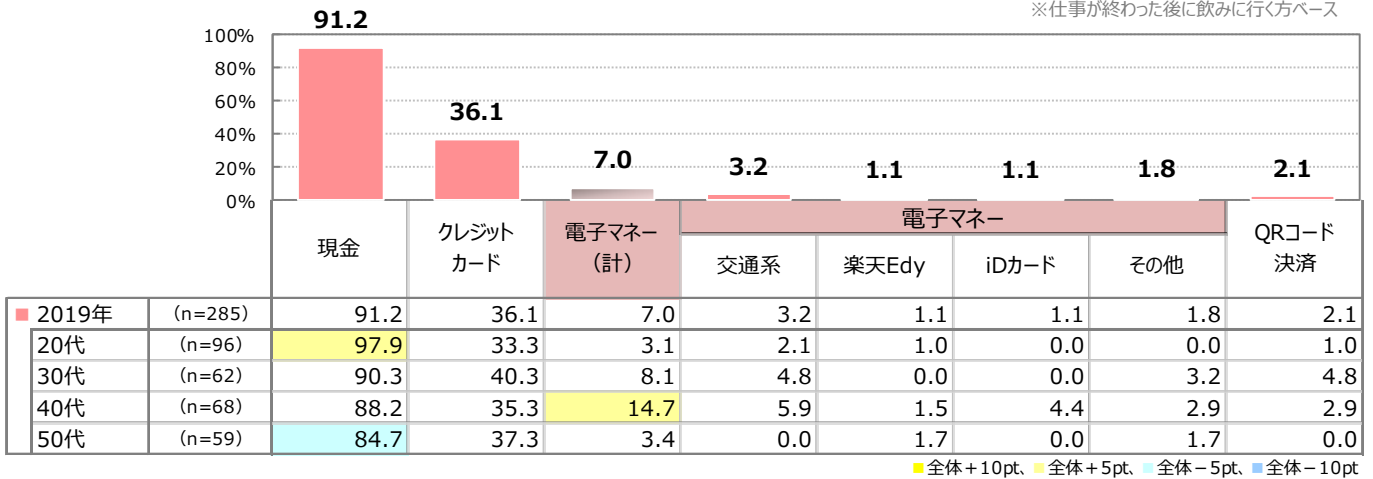
昼食代

※昼食にお金をかける方ベース



飲み代

※仕事が終わった後に飲みに行く方ベース



■ 今後の現金払い以外での支払い手段の意向

2019年10月から消費税が10%に増税され、それに伴い中小の小売店を中心にキャッシュレスでの買い物で、増税分の金額がポイント還元されるという施策を政府が打ち出しておりますが、それによりどの程度キャッシュレス化が進むのでしょうか。

まず、男性会社員での現金以外で利用したい支払い手段をみると、「クレジットカード」が69.4%で最も高く、「交通系電子マネー」47.5%が続きます。年代別では、「QRコード決済」が若年層ほど高い点が特徴的です。

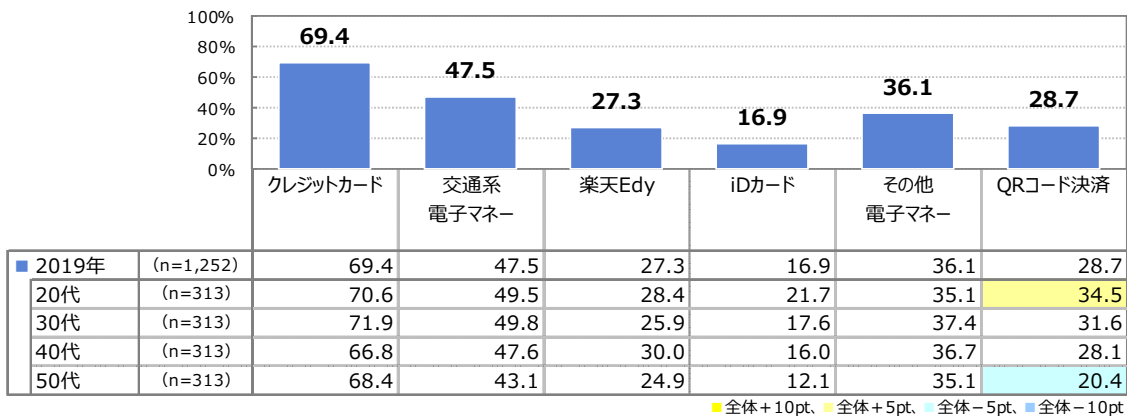
また、増税分がポイント還元される場合に利用したい支払い手段も同様に、「クレジットカード」が70.4%で最も高く、「交通系電子マネー」48.9%が続きます。現金以外で利用したい支払い手段との差分をみると、全体的に利用意向は微増という結果となっております。

設問：今後、現在現金支払いしか対応していない中小の店舗で買い物やサービスを受けた際、現金以外の支払いができるとした場合、それぞれあなたのお気持ちに最もあてはまるものをお選びください。

男性会社員

現金以外で利用したい支払い方法

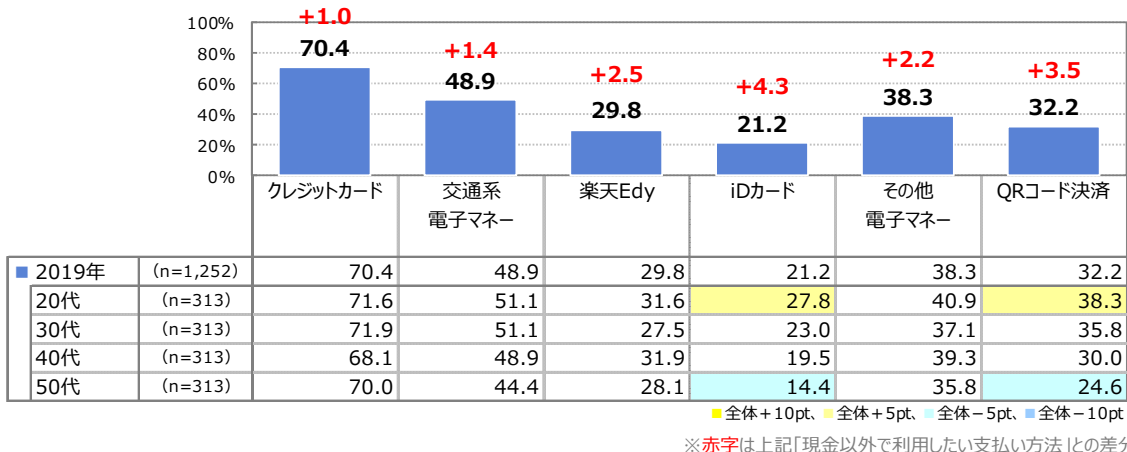
※スコアは利用したい・計（とても利用したい+やや利用したい）



設問：今後消費税が10%に引き上げられた際、中小の店舗で買い物やサービスを受けた時の現金以外の決済方法に限り、増税分をポイント還元する仕組みが検討されていますが、実際にポイント還元される場合、それぞれあなたのお気持ちに最もあてはまるものをお選びください。

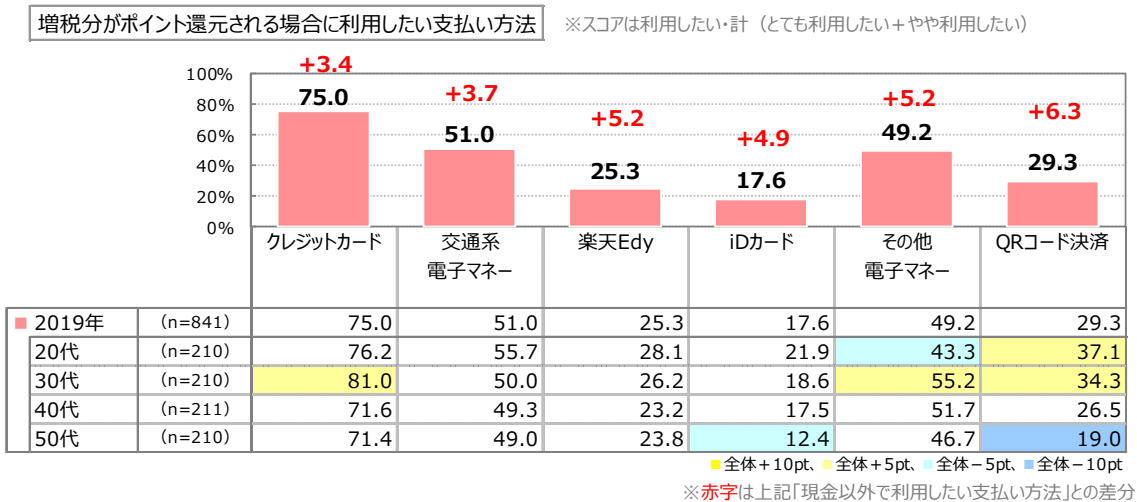
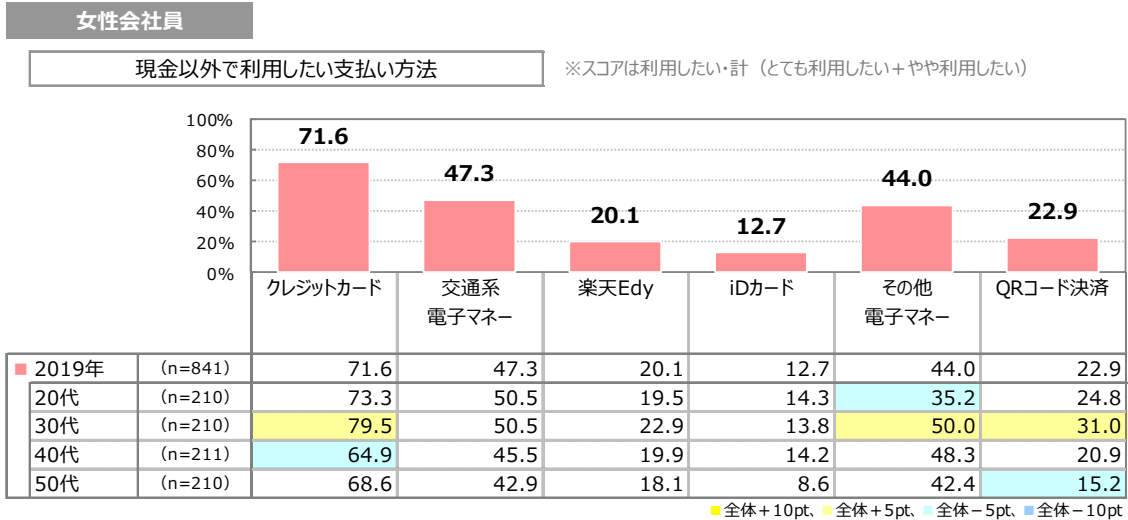
増税分がポイント還元される場合に利用したい支払い方法

※スコアは利用したい・計（とても利用したい+やや利用したい）



女性会社員での現金以外で利用したい支払い手段をみると、男性会社員同様、「クレジットカード」が71.6%で最も高く、「交通系電子マネー」47.3%が続きます。

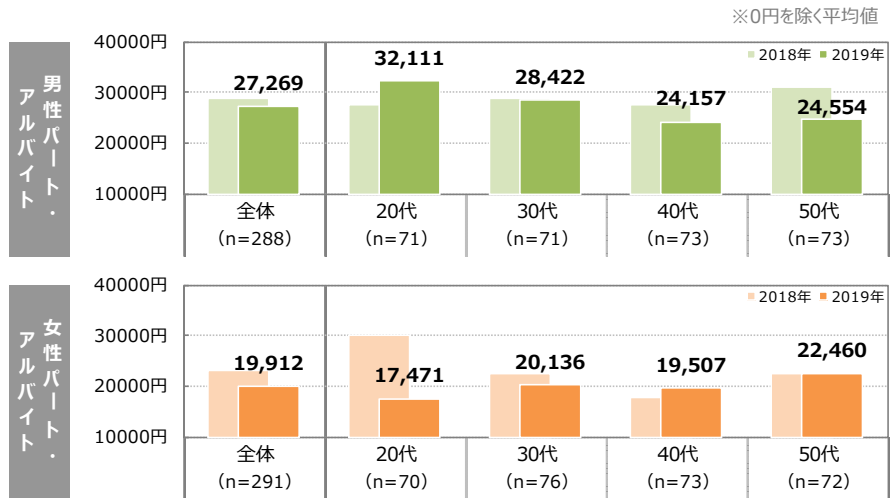
また、増税分がポイント還元される場合に利用したい支払い手段も同様に、「クレジットカード」が75.0%で最も高く、「交通系電子マネー」51.0%が続きます。現金以外で利用したい支払い手段との差分をみると、こちらも男性会社員同様、全体的に利用意向は微増という結果となっております。



【9】パート・アルバイトの基本データ

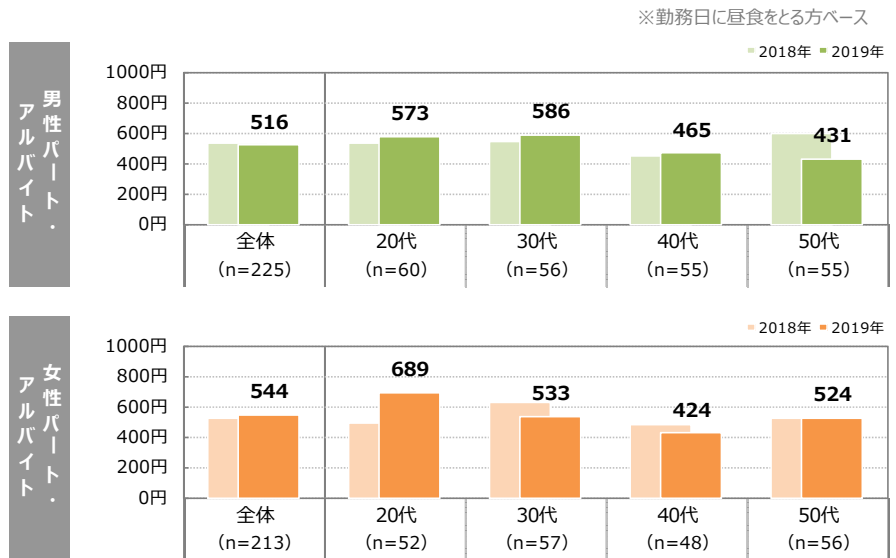
■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



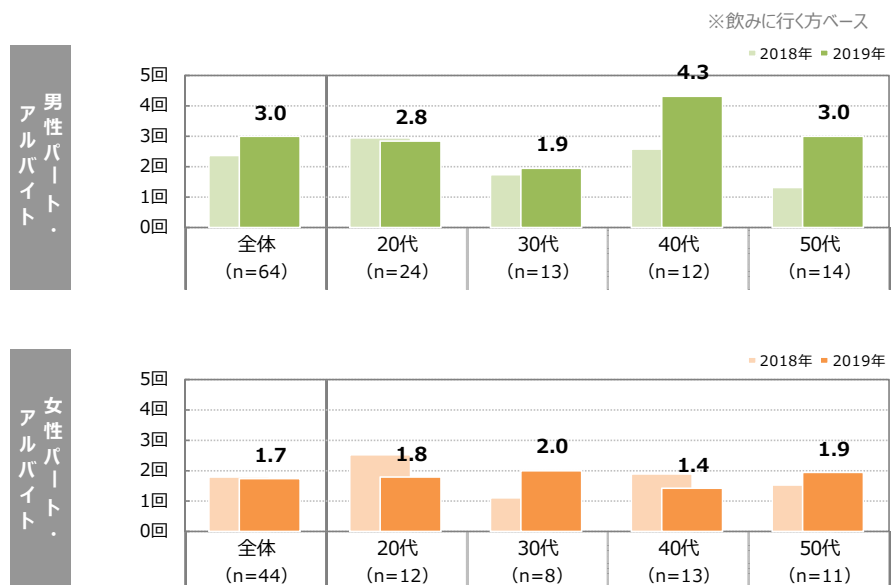
■ 昼食事情

1日の平均昼食代



■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

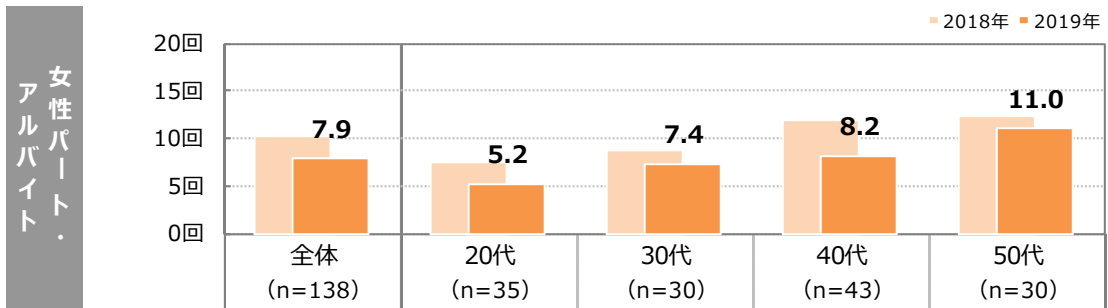
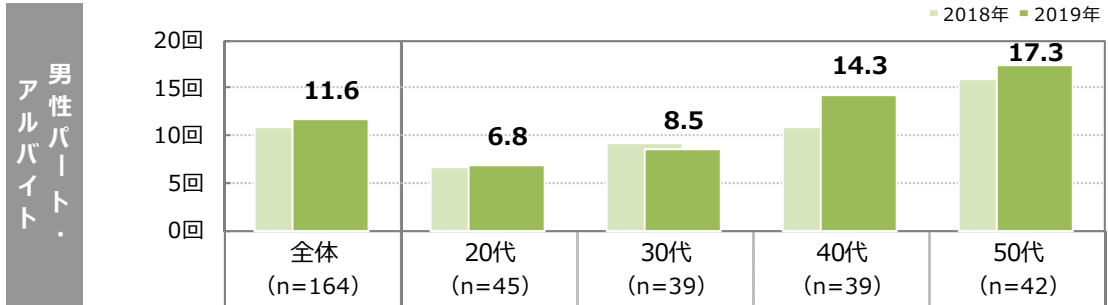


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

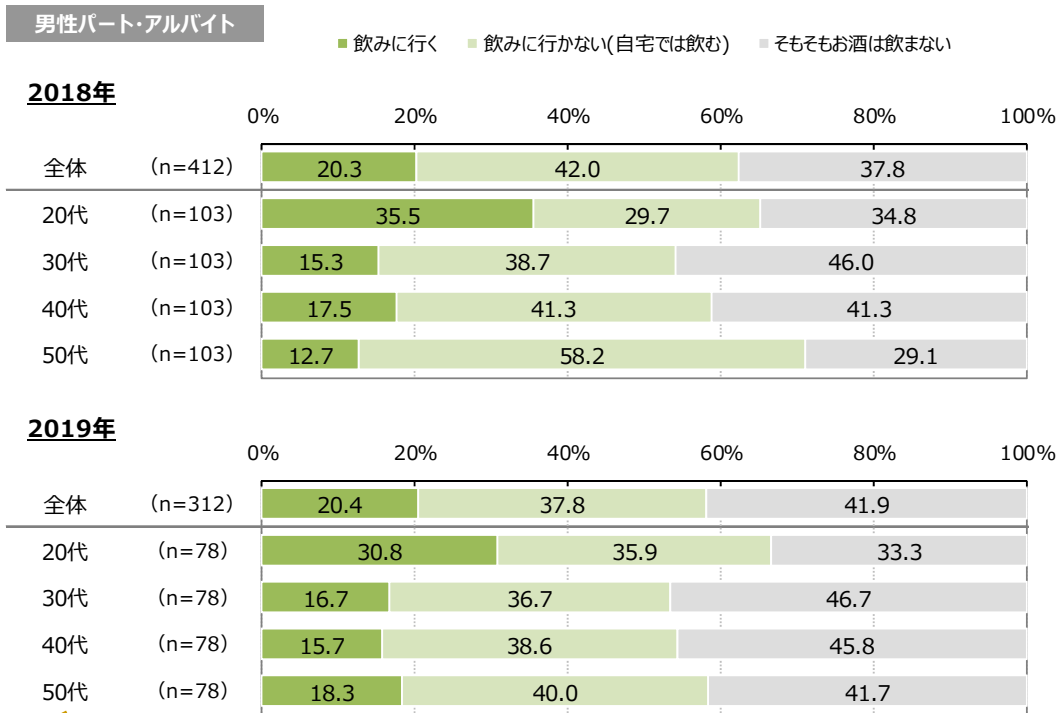
1カ月の家飲み回数

※自宅飲む方ベース

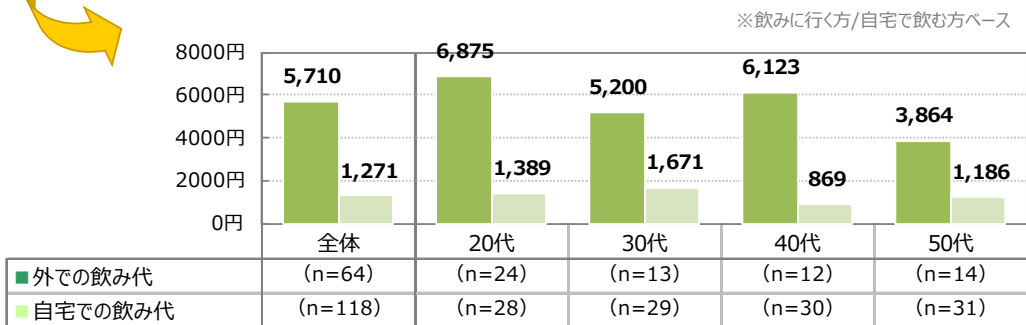


■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



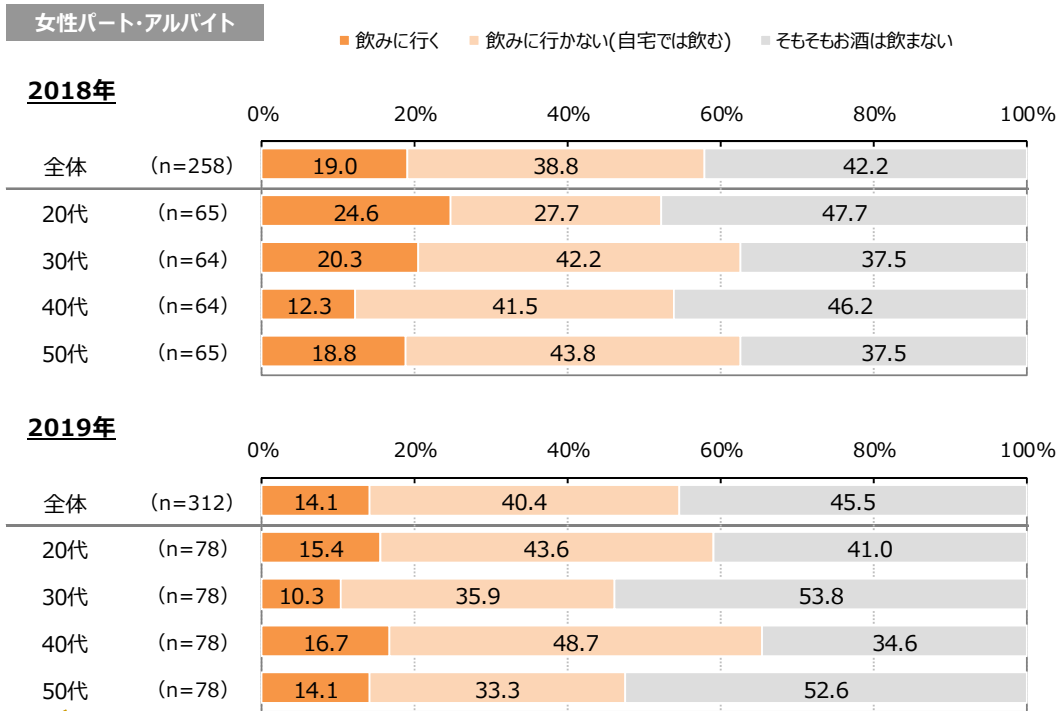
1回の平均飲み代は・・・？



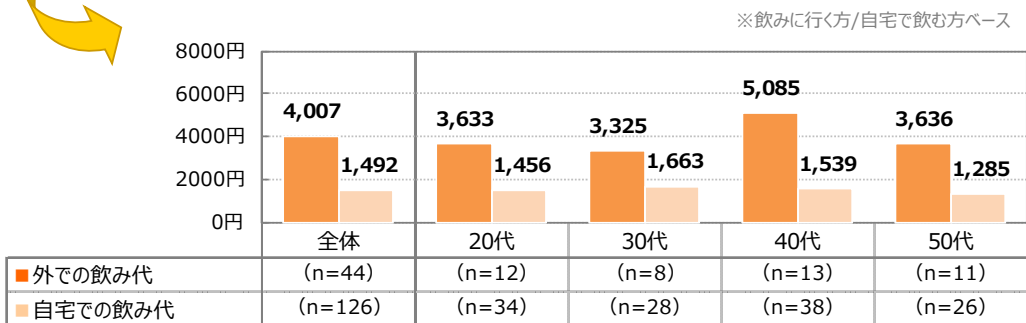
※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



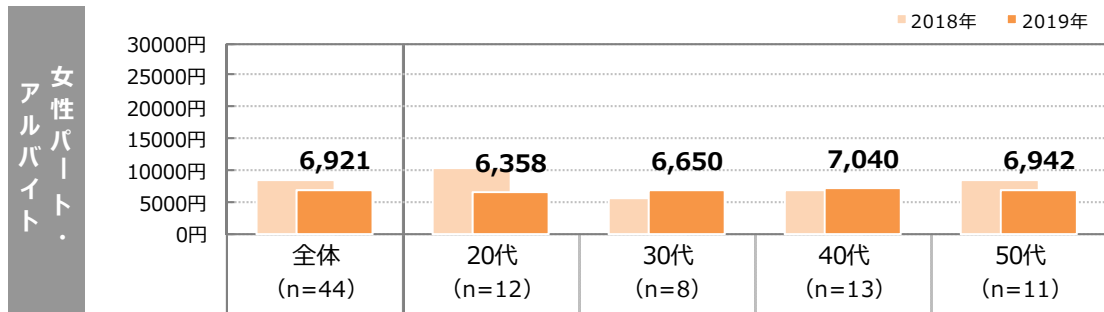
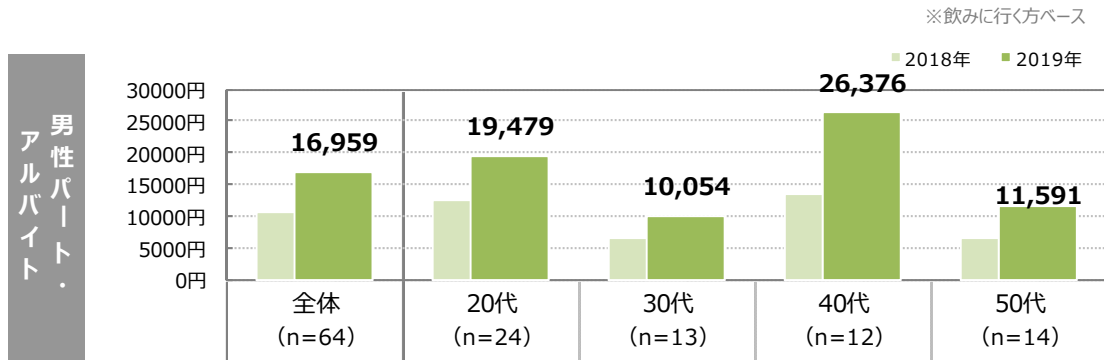
1回の平均飲み代は・・・?



※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1カ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載